

ジェンダー平等達成と社会変革を
目指したプログラムづくりのガイドブック

ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラム ガイドブック

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

gender-Transformative program Guidebook

PLAN INTERNATIONAL

Plan International

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために世界70カ国以上で活動する国際NGOです。創立は1937年。長年にわたり、子どもや若者、地域の人々とともに地域開発をすすめてきました。すべての子どもたちの権利が守られるよう、とりわけ女の子や女性への支援に力を入れています。市民社会、政府機関や国際機関と連携しながら、世界を持続的に、前向きに変えていきます。

2017年からは、1億人の女の子が「Learn, Lead, Decide and Thriveできる（学び、先頭に立ち、自分で人生を決定し、差別や暴力のない環境で成長できる）」世界を実現するという5カ年計画をすすめています。女の子、男の子、ユースが、自分にかかわる事柄の意思決定プロセスに参加をして、変化を起こす当事者として活動をし、特に女の子と女性がジェンダー平等実現にむけてリーダーシップを発揮できるように支援しています。

©Plan International

03 ガイドブックに出てくる用語の定義

07 ガイドブック作成の背景と目的

09 Chapter 1 ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの概念

10 Section 1 - 1 プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチとは

16 Section 1 - 2 ジェンダー・トランスフォーマティブの可能性を示す 4 つのレベル
【ジェンダー・トランスフォーマティブの可能性を示す 4 つのレベル】

18 Chapter 2 ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの実践

19 Section 2 - 1 プロジェクトの計画、実施、モニタリング・評価におけるステップ

21 Section 2 - 2 【計画段階】アセスメントと分析
ジェンダー、包摂、年齢分析フレームワーク

24 Section 2 - 3 【計画段階】指標の設定

29 Section 2 - 4 【実施・評価段階】変化の測定

33 Section 2 - 5 【計画・実施・評価段階】ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーによるアセスメント

35 Chapter 3 ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの実践例

36 Section 3 - 1 ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの好事例集

36 ACTIVITY 1 事例 1 ラオスの学校でのジェンダー平等促進プロジェクト

40 ACTIVITY 2 事例 2 ジェンダー平等達成のためのユースエンゲージメント・プログラム
:「チャンピオン・オブ・チェンジ」

43 ACTIVITY 3 事例 3 女性と子どものための保健プログラム

47 Section 3 - 2 プロジェクト分野ごとでジェンダーを統合した実践例

巻末資料

49 Appendix 1 アセスメントや啓発のための参加型ワークショップ・アクティビティ

62 Appendix 2 ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー【計画時のアセスメント】

75 Appendix 3 プロジェクト実施におけるLGBTIQ+の子どもとユースの権利と安全を守るためのガイド

77 参考資料

©Plan International



ガイドブックに出てくる用語の定義

Terms and Denfinitions

©Plan International

Gender

ジェンダー

ジェンダーは、社会文化的に形成される性別です。社会や文化で異なる、男女の役割、関係性、価値などに基づく考え方や、規範や期待を表しています。男女間の関係性や力関係を分析し、社会的な障壁や機会を分析するために、ジェンダーの視点に立つことは不可欠です。また、ジェンダーは、「女性」と「男性」という二分化されたカテゴリーではなく、ノンバイナリー（実際は女性にも男性にも分類されない、もしくは両方を持ち合わせている）など多様なジェンダー・アイデンティティが存在します。（ジェンダーという概念には、 既に多様なLGBTIQ+の人々も含まれると解釈することもあります）。

Gender Equality

ジェンダー平等

すべての人々が、ジェンダーにかかわりなく、社会において平等な権利を有し、同じ地位をもち、尊重され、自己決定とその結果への影響力をもつことです。

Gender Norm

ジェンダー規範

「女性・男性は～であるべき」など、二分化された性別に基づく社会的な考え方や期待です。この規範により、「女性は家事、育児をする」などのジェンダーに基づく固定的性別役割や、「男性は女性よりリーダーに適している」といった思い込みが形成されます。ジェンダー規範は、ジェンダー不平等の根本原因となっていて、法律やさまざまな社会制度にも影響をおよぼしています。

Gender-Based Violence:GBV

ジェンダーに基づく暴力

「女性だから」、「男性だから」という、ジェンダーが原因で受けるあらゆる形態の暴力です。ジェンダー間の社会的な力の不均衡やジェンダー規範が原因となり起こります。 性暴力、性的虐待、セクシュアル・ハラスメント、性的搾取、早すぎる結婚・強制された結婚、性差別、 女性性器切除などが挙げられます。

Inclusion

包摂

個人や集団が社会に参加し、 権利を実現する条件を改善するプロセスです。 包摂の実現には、社会的に不利な立場に置かれ、 排除されている人々やグループのさまざまな機会へのアクセスを改善し、個々人の尊厳が尊重されることが求められます。 そのためには、 排除される根本原因に取り組むとともに、さまざまな排除の原因がどのように絡み合っているのかを理解する必要があります。

©Plan International

Exclusion

排除

特定の個人や集団が権利実現を阻害されるプロセスです。排除は、特定の個人や集団への差別的な価値観、社会的リソースや地位への不平等なアクセス、およびこれらを許容する社会規範によって起こります。

Intersectionality

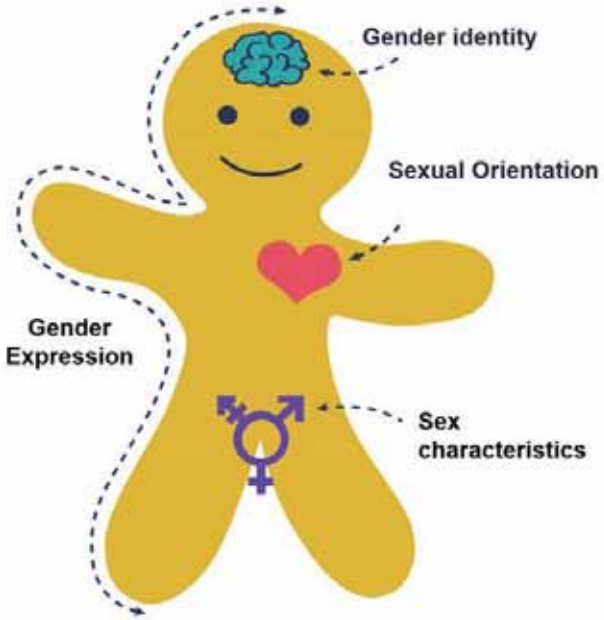
交差性

ジェンダー、人種、セクシュアリティなど、個人が持つ複数のアイデンティティを明らかにし、それらがどのように作用し合い、差別や抑圧を生み出しているかを理解する概念です。

LGBTIQ+

エルジービーティーアイキュー＋

レズビアン（Lesbian）、ゲイ（Gay）、バイセクシュアル（Bisexual）、トランスジェンダー（Transgender）、インターセックス（Intersex）、自らの性的指向や性自認について疑問をもっている人（Questioning）、またこれらに当てはまらないアイデンティティの人（+）のことを指す総称です。性的指向や性自認は、LGBTIQ+ とそうでない人と、はっきりと分かれているのではなく、グラデーションであり、多様なセクシュアリティがあります。別の言い方としてSOGIやSOGIESCという表現があります。SOGIESCは、性的指向（Sexual Orientation）、性自認（Gender Identity）、ジェンダー表現（Gender Expression）そして性的特徴（Sex Characteristics）の略です。



出典：It's Pronounced Metrosexual

Gender-Transformative Approach

ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ

ジェンダー不平等とその根本原因となるジェンダー規範、ジェンダー間の不平等な力関係、差別的な意識や法律、制度、社会構造を変革し、特に女の子と女性の状況改善だけでなく、彼女たちの社会的地位の向上や意思決定過程への参画を目指すものです。また、ジェンダー以外のアイデンティティが原因で受ける差別や排除にも取り組むアプローチです。

©Plan International

Agency of Girls and Women
女の子・女性のエージェンシー

女の子と女性が、知識、自信、批判的思考を身に付けることです。また、声をあげ、リスクを特定し、自らを守ることや、ジェンダー平等と包摂達成のために周囲の人々や社会を動かし影響を与える能力を含みます。

Engaging Boys and Men
男の子・男性のエンゲージメント

男の子と男性がジェンダー平等達成のために理解を高め活動に参加し、有害な男性性（マスキュリニティ）をより非暴力でポジティブな意識・行動に変えていくことです。男の子と男性自身が、ジェンダー関係や不平等な社会の変革の担い手（agent of change）になるだけなく、彼らにとっても良い結果をもたらすことが大切です。

Empowerment of Girls and Women
女の子・女性のエンパワーメント

女の子・女性が、自分自身の人生を切り開く力を高め、自分に影響する他者との関係性、社会的・政治的な環境を自分でコントロールできる力をつけるための戦略です。

Harmful Practices
有害な慣習

社会的、文化的、宗教的伝統の名のもとに行われる女性性器切除（FGM）、早すぎる結婚・強制された結婚、男子選好による女の子の胎児妊娠中絶など、特に女の子に大きな影響を与える慣習のことを指します。有害な慣習は、ジェンダーに基づく暴力の一種であり、人権を侵害するものです。

Sexual and Reproductive Health and Rights : SRHR
性と生殖に関する健康と権利

すべての人々が、性と生殖に関する正しい知識を持ち、健康と権利が守られ、自分の身体についての決定権を持つことを指し、1994 年の国際人口開発会議から取り入れられるようになった概念です。

©Plan International

ガイドブック作成の背景と目的

プランは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために、とりわけ女の子や女性への支援に力を入れています。これまでさまざまな分野で活動を行ってきましたが、ジェンダー平等達成に向けた変化を早めるために、従来の方法を見直し、ジェンダー・トランスフォーマティブ(変革的な)・アプローチを提唱しています。

国際協力の分野では、1980年代の「ジェンダーと開発」アプローチの誕生、1995年の第4回世界女性会議における「北京宣言・行動綱領」の採択、2000年のミレニアム開発目標(MDGs)の設定などの一連の国際的な取組により、ジェンダー平等と女の子・女性のエンパワーメントを目指してジェンダー主流化が推しすすめられてきました。

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」と持続可能な開発目標(以下、「SDGs」)(2015-2030)では、ジェンダー平等は、SDGsの目標5のみならず、横断的な課題として、他の16のすべてのSGDs目標の達成に関連しています。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の宣言部分には、「ジェンダー」という独立したパラグラフがあり、「ジェンダー平等の実現と女性・女児のエンパワーメントは、すべての目標(SDGs)とターゲットにおける進展において死活的に重要な貢献をするものである。」とあります。つまり、ジェンダー平等と女の子・女性のエンパワーメントの達成なくして、持続可能な開発目標は達成できないということを宣言文で示しています。

SDGs目標達成年の2030年までに10年しか残されていない今、日本国内を始めとして、グローバルレベルで喫緊な課題として優先的に取り組む必要性を示すデータがいくつか発表されています。プランも加盟しているパートナーシップ「Equal Measures 2030」が独自に開発したSDGsジェンダー指標※1を基に129カ国のデータを分析およびスコアによる評価をしたところ、世界の女性人口の約40%にあたる約14億人の女の子と女性は、ジェンダー平等が著しく達成されていない地域や社会に住んでいることがわかりました※2。

また、家族計画(目標3)、女の子の中等教育(目標4)、女性の政治参加とリーダーシップ(目標5)、職場のジェンダー平等に関する法律(目標8)、公共の場での女性の安全(目標16)に関するデータを分析し、このままのペースでいくと、約半分の67カ国はこれらのゴールを2030年までにひとつも達成できないと試算しました※3。さらに、国連開発計画(UNDP)が2020年に発表したレポートによると、過去10年のUNDPジェンダー不平等指数の改善は非常に緩やかで、鈍化しており※4、世界経済フォーラムは、現在の取り組みのペースでは、グローバルレベルでジェンダーギャップが解消されるには163年かかると警告しています※5。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、これまでのジェンダー平等に向けた歩みが後退してしまうという懸念も

※1：SDGsの17の目標のうち、特にジェンダーの視点が必要と考えられた14の目標に51のSDGジェンダー指標を設定。
※2：Equal Measures 2030, 2019. The Power of Data for Gender Equality: Introducing the 2019 EM2030 SDG Gender Index https://www.equalmeasures2030.org/wpcontent/uploads/2019/07/EM2030_2019_Global_Report_English_WEB.pdf
※3：Equal Measures 2030, 2020. Bending The Curve Towards Gender Equality by 2030 https://www.equalmeasures2030.org/wp-content/uploads/2020/03/EM2030BendingTheCurveReportMarch2020.pdf
※4：UNDP(United Nations Development Programme), 2020. Tackling Social Norms. A game changer for gender inequalities http://hdr.undp.org/sites/default/files/hd_perspectives_gsni.pdf
※5：World Economic Forum, 2019. Global Gender Gap Report 2020 http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf

©Plan International

あります。

このガイドブックは、さまざまなセクターやステークホルダー（利害関係者）が協力してSDGs目標の達成に向けて取り組みを加速していく必要があるなか、プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの知見を日本の国際協力NGO、開発プロジェクトを実施している機関の方々に共有し、活動に取り入れていただく目的で作成しました。

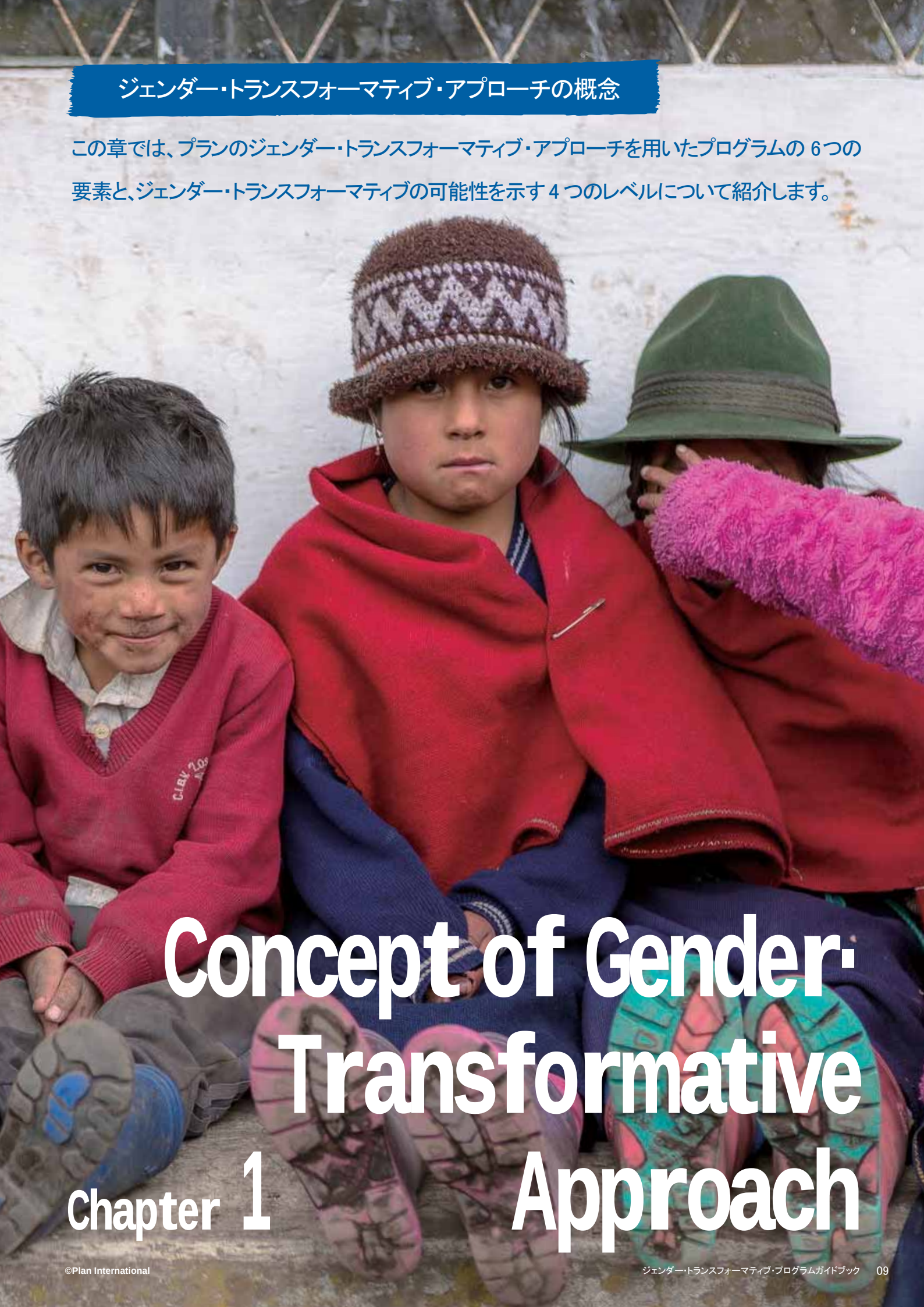
プランは、本ガイドブック作成前に、日本のNGOを対象にジェンダー主流化の状況や、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを用いたプログラム（以下、ジェンダー・トランフォーマティブ・プログラム）への関心等についてアンケート調査※6 を実施しました。その結果、実施プロジェクトをジェンダー主流化する必要性を「感じている」、「まあ感じている」と回答したNGOは 93.1%、「ジェンダー主流化を目指す事業計画や組織目標がある」のは 65.5%、「海外での開発プロジェクトにおいてすべてのプロジェクトでジェンダー主流化を行っている」のが 24.1%でした。また、組織内でジェンダー平等の意識をつくり理解を得ることの難しさや、経験およびリソースの不足、団体の優先順や活動分野からジェンダー主流化が困難であるという課題を抱えている団体があることもわかりました。

本ガイドブックは、プランが用いているアプローチ、ツール、プロジェクトにおける実践の紹介が中心ですが、より良い活動のために、活動や指標の例を参考にしていただくなど、活用できるように作成しました。プランのプロジェクトは、「0 歳 ～ 24 歳の子どもとユース」を主な対象としているため、ツールのなかで「子ども」、「思春期の子ども」、「ユース」などの特定の年齢グループを指す表現がたくさん出てきますが、各団体の対象グループまたはプロジェクトの参加者と置き換えることが可能です。

1) ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの概念、 2) ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの実践方法、3) ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの具体的な実践例の 3 つの章で構成されています。巻末資料では、参加型アクティビティの例と、プロジェクトがどの程度ジェンダー・トランフォーマティブの可能性があるか評価するツール、プロジェクト実施における LGBTIQ+の子どもとユースの権利と安全を守るためのガイドを参照いただけます。

※6 : NGO が参加しているメーリングリストでよびかけ、オンライン上で 2020 年 3 月 30 日～ 4 月 15 日に実施。25 団体、29 名から回答を得た。

©Plan International



Chapter 1 Concept of Gender-Transformative Approach

ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの概念

この章では、プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを用いたプログラムの 6 つの要素と、ジェンダー・トランスフォーマティブの可能性を示す 4 つのレベルについて紹介します。

©Plan International

Section 1 - 1

プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチとは

「ジェンダー主流化」（gender mainstreaming）とは、ジェンダー平等、および女の子と女性のエンパワーメントの達成を目的に、ジェンダーの視点に立って全ての政策や事業の計画、実施、モニタリング、評価、ならびに組織の運営をおこなうことです。プランが提唱する「ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ」とは、ジェンダー主流化として、特にプログラムとアドボカシーの活動に、以下の 6 つの要素を可能な限り取り入れるアプローチのことです。

ジェンダー・トランスフォーマティブの 6 つの要素

1. ジェンダー不平等とその根本原因となるジェンダー規範を変える。
2. 女の子と女性が自分の人生に関わる、大切だと思う事柄について、自由に選択と意思決定をし、自分の目標に向かって行動ができる実現可能力（エージェンシー）を支援する。
3. ジェンダー問題は、男の子と男性との関わりのなかで生まれる問題であることから、女の子と女性だけではなく、ジェンダー平等達成を目的とした男の子と男性のエンゲージメントを図る。
4. 女の子と女性の状況（コンディション）改善だけでなく、社会的地位（ポジション）を向上させる。
5. 障害の有無、民族、人種、セクシュアリティ、年齢、教育、貧富の差などにより、個々の経験が異なるため、多様な子どもとユースの異なるニーズを明確にし、差別や排除の問題に取り組む。
6. 差別的、排除的な法律や制度、社会構造を変える。

要素 1. ジェンダー規範

ジェンダー不平等の根本原因となっているジェンダー規範は、国や社会により異なります。「女性は家で家事に専念すべき」など固定化された性別役割の考えや、男性のほうが偉い、男性が世帯を代表するなどの男性優位の考え方（家父長制）など、多くの共通点が多く挙げられますす。これらの規範により、性別役割分業や、思い込みが形成されます。また、ジェンダー規範は、社会的に二分化された性別による、あるべき姿に当てはまらない LGBTIQ+ への差別と暴力の原因でもあります。ジェンダー規範を見直し、変えることは、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの中核となり、子どもの時から年齢や発達段階に合わせてジェンダー平等な意識を形成するための取り組みが必要です。

©Plan International

表 1-1. ジェンダー規範の例

女の子・女性	男の子・男性
スカートをはくべき	ズボンをはくべき
髪が長いほうが女性らしい	髪が短いほうが男性らしい
家事・育児をするべき	一家の大黒柱、外で働くべき
控えめで従順なのがよい	積極的でリードするべき
泣いてよい	泣いてはいけない
理系に弱い	理系に強い

例えば、教育の分野で考えてみましょう。女の子の就学率が男の子より低く、女の子の方が中途退学する率が高いコミュニティでは何か起きているのでしょうか。息子と娘がいる家庭では、親はどちらも学校に通わせたいのですが、家計が苦しいため息子だけに教育を受けさせることを優先することが多くみられます。その背景には「女の子は家で家事の手伝いをするので十分」、「女の子が教育を受けても、結婚して稼ぎ手にならないためで教育が役に立たない」、「女の子は早く結婚をした方が良い」、「将来親の面倒を見てくれるのは男の子だ」などのジェンダー規範や思い込みがあります。ジェンダー・トランスフォーマティブな状況を作り出すためには、女の子が教育へアクセスするために障壁になっているこのようなジェンダー規範を変えるための啓発活動や研修を、父親・母親、地域のリーダーやコミュニティの人々、学校の教員や教育関係者、政府機関など、多様なステークホルダーに対して行うことが効果的です。



©Plan International

要素 2. 女の子・女性のエージェンシー

自分の人生に関わる大切だと思う事柄について、自由に選択と意思決定をし、自分の目標に向かって行動ができる実現可能力をエージェンシーと言います。女の子・女性のエージェンシーの醸成を支援し、選択したことを実現可能にする環境（制度やサービスの提供も含め）を整えることは、女の子・女性の地位改善やジェンダー平等促進の重要な要素となります。エージェンシーというのは、具体的には、自己肯定感、自信、自尊心、批判的意識を持ち、リスクを認識し、自分を守り、ジェンダー平等と社会的包摂の達成のために周りを動かし影響を与える能力を指します。ジェンダー規範の影響で、一般的に女の子・女性は男の子・男性と比較して、意見を言うことに控えめになったり、自信がもてなかったり、意思決定の場に参加する機会が限られる傾向にあります。これらの能力強化を支援するためには、情報へのアクセスを改善し、啓発活動やリーダーシップ・トレーニングを実施し、女の子・女性が集まって情報や体験を共有できるネットワーキングができるような時間や場所の確保をすることなどが求められます。

要素 3. 男の子・男性のエンゲージメント

ジェンダー平等達成のためには、女の子と女性のエンパワーメントと同時に、男の子と男性がプロジェクトの活動に参加し行動変容を起こすことが重要です。プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチでは、男の子と男性が社会的に学び、身につける「男らしさ」で有害な男性性（マスキュリニティ）を、よりポジティブな意識・行動に変えていくことが求められます。有害な男性性は、すべての男の子と男性が持ち合わせているわけではありませんが、誤った「男らしさ」として多くの社会で浸透しています。

表 1-2. 有害な男性性、ポジティブな意識・行動の例

有害な男性性の例	ポジティブな意識・行動の例
支配とコントロール	対等な関係
暴力	非暴力
感情の抑制	感情の表現
強さ（振る舞い、表現）	多様な振る舞い、表現
女性の性対象化、モノ化	女性の尊重

ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチでは、男の子・男性がこうした「有害な男性性のあり方」から解放され、ジェンダーに基づく規範と役割の変革を起こし、女の子・女性と対等な関係を築くことをサポートします。男の子・男性自身が変化の主体となるだけでなく、ジェンダー平等を達成するための活動が、男の子・男性にとっても良い結果をもたらすことが大切です。

©Plan International



要素 4. 女の子・女性の状況（コンディション）と地位（ポジション）

状況（コンディション）は、住まい、食料、安全などの基本的なリソース（生活資源）へのアクセスを含む日々のニーズやウェルビーイング（well-being）を意味し、地位（ポジション）は、社会的、法的な地位、および個人または集団にどれだけ価値が置かれているかを指します。地位（ポジション）には、リソースをコントロール（管理・所有）する力と、自分の人生に関する事柄の意思決定をする能力も含みます。女の子・女性の日常における状況(コンディション)を改善することは重要ですが、それだけではジェンダー不平等を解決することはできないので、状況(コンディション）と地位（ポジション）の両方の改善に取り組む必要があります。

また、ジェンダー課題は力（パワー）の視点からみることが大切です。力というと、「権力」、「コントロール（管理権・所有権）」、「決定権」、「地位」、「経済力」などが思い浮かぶかもしれませんが、それらをジェンダーに当てはめると、多くの社会では、一般的に男性が女性より社会的な力を持っています。そのような社会では、女の子と女性の地位が低く、家庭や社会で不利な立場、リスクに対して脆弱な立場などに置かれる傾向にあります。このため、女の子・女性の地位を向上させ、ジェンダー間の力関係を是正することが求められます。

【ジェンダー間の力関係が不均衡（男性がより力を持った）な例 】

- 意思決定をするのは男性が多い
- 社会的地位、権力があるポジション、世帯 のリーダー（戸主）はほとんど男性
- 政治を行うのはほとんど男性
- 男性のほうがお金を稼げる（男女間の賃金格差や女性の無償の家事労働・ケア労働）
- 男性のほうが土地や家屋などの資産を所有する
- 男の子ほうが教育を受けられる

©Plan International

要素 5. 多様性と包摂

男性でも、例えば LGBTIQ+の人々は、社会やコミュニティで受け入れられず、差別や抑圧を受けているかもしれません。女性でも、障害があったり、少数民族、子ども、高齢者、出稼ぎ労働者、難民などである場合、さらに不利な立場へと追い込まれてしまうことがあります。こういった年齢、障害、セクシュアリティ、民族などのアイデンティティとの交差性（intersectionality）、それによる排除の可能性に留意しながら、ジェンダー平等と包摂が実現できるようにしていく必要があります。LGBTIQ+ である、障害がある、少数民族など多様な子どもとユースが活動に参加するだけでなく、変化の担い手となり、周囲や社会の理解を深めるための活動や啓発も必要です。

要素 6. 社会制度と仕組み

法律や制度と言うと、ジェンダー平等を推進する女性差別撤廃条約（CEDAW）のような国際的な条約から、国内の法律、地域で作られてきた慣習、宗教上の規則などさまざまなレベルのものがあります。ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチでは、女の子と女性を差別・排除するような法律や制度、慣習をさまざまなレベルで変革する取り組みをします。例えば、国によっては、女の子の早すぎる結婚（児童婚や早婚）を助長してしまう結婚最低年齢に関する法律や、自己決定の権利、性と生殖に関する健康と権利（SRHR）が奪われる人工妊娠中絶を禁止するなどの法律、家庭内暴力を犯罪としない法律などがあります。ジェンダー平等を推進する法律や指針があっても、政府の予算不足によって具体的な施策が実施できなかったり、法律が定められても地域やコミュニティでは知られていないために守られていない、ということもあります。人々の意識や社会の規範、伝統的な慣習が変わらない限り、法律の実効性や制度の定着は不十分となるので、法律や制度を変えるのと同時にジェンダー規範や有害な慣行（harmful practice）の見直しに取り組む必要があります。

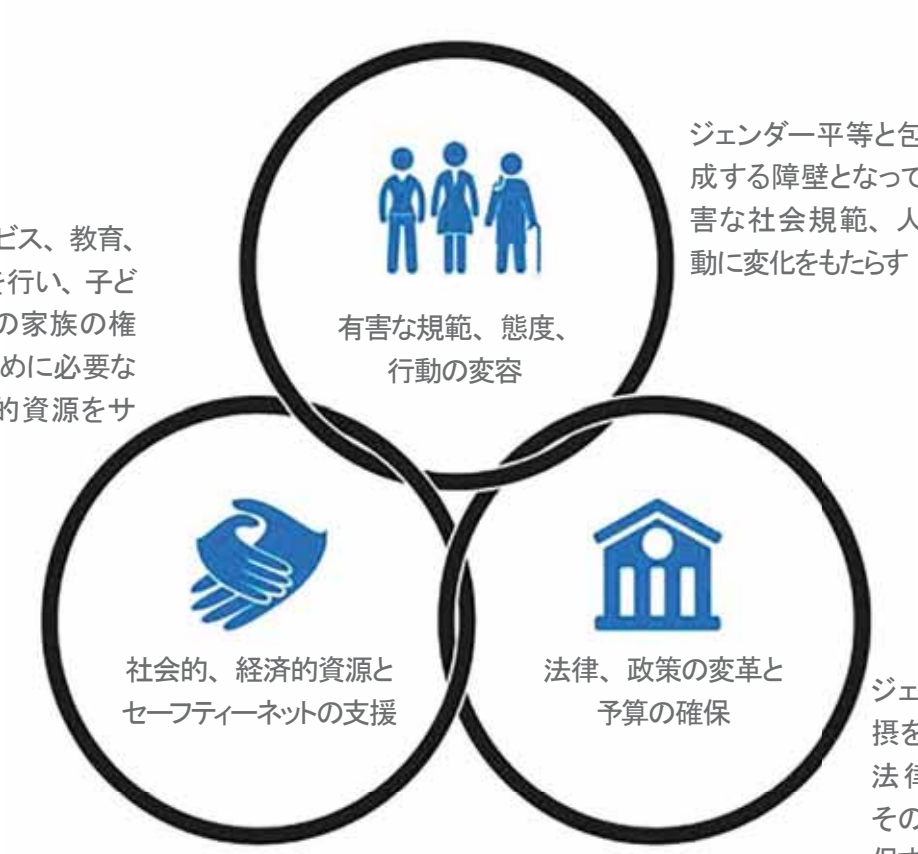


©Plan International

変化を起こすためのセオリー・オブ・チェンジ

プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチでは、女の子・女性と男の子・男性が人生に関わる大切なことを主体的に選択し、行動し、権利を実現する障壁となっていることがらを取り除き、ジェンダー平等を理解し、その実現に向けて行動し、多様な子どもとユースが変化の担い手になることを目指します。プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチは、理論的根拠となるプランの“セオリー・オブ・チェンジ”に基づいています。このなかでは、必要な変化を起こすために、1) 社会規範、態度、行動、2) 社会的、経済的資源とセーフティーネット、3) 法律、政策、予算、についてすべての項目において変革を目指すことが必要としています。

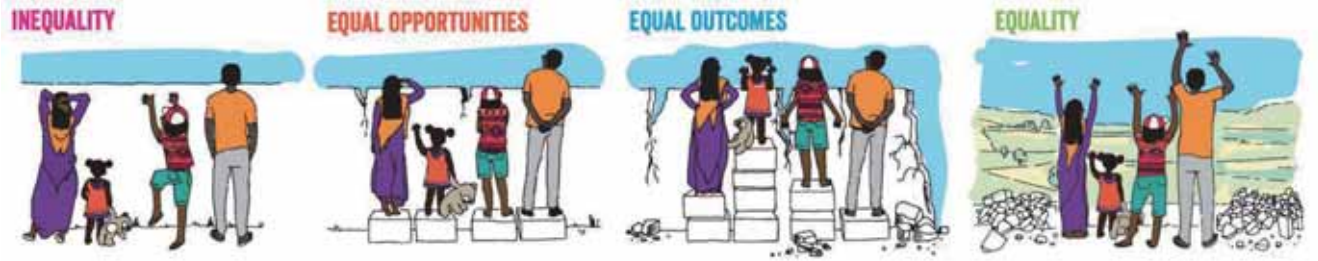
図 1–1. セオリー・オブ・チェンジ



保健・医療サービス、教育、生計支援などを行い、子どもとユース、その家族の権利を実現するために必要な社会的・経済的資源をサポートする

ジェンダー平等と包摂を達成する障壁となっている有害な社会規範、人々の行動に変化をもたらす

ジェンダー平等と包摂を促進するために法律・政策を変え、そのための予算を確保する



女の子、男の子（子ども）、女性、男性（大人）で不平等が起きている状態

元々の不平等があるため、平等な機会は与えられているものの、平等な結果には達してない状態

元々の不平等を配慮し、平等な結果がもたらされた状態

権利実現のための障壁が取り除かれ、平等な状態

©Plan International

Section 1 - 2

ジェンダー・トランスフォーマティブの可能性を示す 4 つのレベル

前述の通り、プランの活動では、ジェンダー・トランスフォーマティブの 6 つの要素を取り入れ、子どもとユースの権利実現を阻む多様な障壁を取り除くために、1) 社会規範、態度、行動の変容 、2) 社会的・経済的資源とセーフティーネットの支援 、3) 法律・政策の変革と予算の確保の 3 つの側面全てに変革をもたらすことを目指しています。そして、各プロジェクトがどの程度ジェンダー・トランスフォーマティブの可能性があるかについて、以下の 4 つのレベルに分けて事前に評価しています※7。

【ジェンダー・トランスフォーマティブの可能性を示す 4 つのレベル 】

ジェンダー・アンアウェア （ Gender Unaware ）

ジェンダー平等と排除の問題を全く認識しておらず、ジェンダー不平等や排除の状況を悪化させる傾向がある。ジェンダー平等と包摂に貢献する可能性はない。

ジェンダー・ニュートラル （Gender Neutral）

ジェンダー平等と排除問題を認識しながらも問題解決のために特に何もしないため、逆に ジェンダーの不平等と排除を助長する可能性がある。ジェンダー平等と包摂に貢献する可能性はないか、あってもごくわずかである。

ジェンダー・アウェア （ Gender Aware ）

ジェンダー平等と排除の 問題を提示することによって、女の子・女性がおかれた困難な状況の改善に努めているが、ジェンダー不平等や排除の要因になっているジェンダー規範や力関係、制度、社会構造を積極的に変えようという意図はない。ジェンダー平等と包摂に貢献する可能性は中レベルである。

ジェンダー・トランスフォーマティブ （ Gender Transformative ）

ジェンダー不平等や排除の要因になっているジェンダー規範や力関係を変えようとする明白な意図がある。プログラムの焦点は、単に女の子・女性の多様な現状を改善するだけでなく、彼女たちの社会的地位を改善し、彼女たちが主体的に選択・行動し、権利を十分行使できるように目指すことである 。ジェンダー平等と包摂に貢献する高い可能性がある。

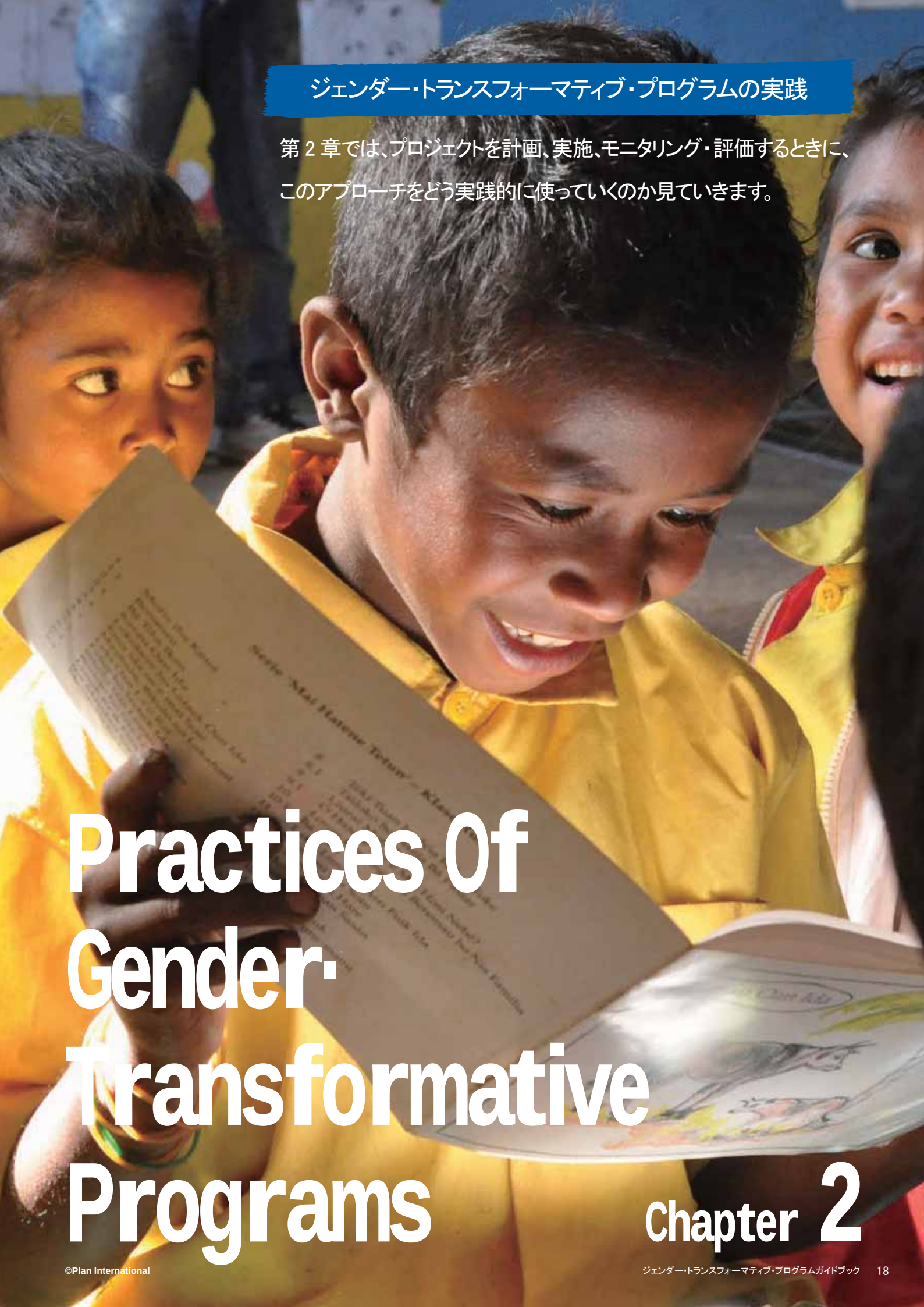
※7：プランでは、緊急・人道支援プロ ジェクトは Inter-Agency Standing Committee IASC の Gender Age Marker https://iascgenderwithagemarker.com/en/ または ECHO の Gender Age Marker https://ec.europa.eu/echo/files/policies/sectoral/gender_age_marker_toolkit.pdf）の使用が推奨されている。

©Plan International

プランでは、2017 年から 4 つのレベルをもとに、すべてのプロジェクトがジェンダー・トランスフォーマティブであることを目指してきましたが、2020 年から次章で紹介するジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーという評価ツールを新たに導入しました。それまでは、すべての活動は、最低でもジェンダー・アウェアに達する必要があるなど、基準を設けていましたが、ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーを導入することで、異なるプロジェクトの目的、分野や規模、実施する地域の状況や文化などの固有の文脈のなかで、可能性を最大限に引き出し、できるだけすべてのプロジェクトがジェンダー・トランスフォーマティブになることを目指します。

ジェンダー課題は複雑で、地域、文化、宗教によっては、扱いが難しいテーマであり、ジェンダー規範が変わり、多くの人々の行動変容が起きるためには、長い年月がかかります。ジェンダー平等は、ひとつのプロジェクトやプログラムで達成するのは難しいため、すべてのプログラムとアドボカシー活動が一丸となり、包括的にジェンダー平等と包摂の実現に貢献できるように、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを取り入れていくことが大切です。

©Plan International



ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの実践

第 2 章では、プロジェクトを計画、実施、モニタリング・評価するときに、このアプローチをどう実践的に使っていくのか見ていきます。

Practices Of Gender-Transformative Programs

Chapter 2

©Plan International

Section 2 - 1

プロジェクトの計画、実施、モニタリング・評価におけるステップ

ジェンダー主流化を促進するためには、プロジェクト・サイクルのなかで計画、実施、モニタリング・評価のすべての段階において、ジェンダー・トランフォーマティブ・アプローチを実践していく必要があります。プランでは、具体的にそれぞれのプロジェクト・サイクルにおいて、以下のステップを取り入れることを推奨しています。

計 画

- ジェンダー平等と包摂の視点から、データ分析やプロジェクトの提案書のレビューができる専門性やスキルをもった人材の確保。組織内にいない場合は、外部人材の活用が可能か、その予算が確保できるかを確認する。
- プロジェクトの計画に必要なジェンダー平等と包摂の視点に立った経済社会的アセスメント実施のリソース（時間と費用、人材等）を確保する。
- ジェンダー平等と包摂の視点に立った経済社会的アセスメントを行い、ジェンダー、年齢、その他の排除要因がどのように平等と権利実現の障壁となっているか分析する（詳細は 21 ページ「アセスメントと分析」を参照）。
- ジェンダー平等に貢献する部分の成果（アウトカム）の設定。指標は可能な限り細分化し、定量的指標に関しては、必ずジェンダーと年齢別のデータを収集する（詳細は 24 ページ「指標の設定」を参照）。
- プロジェクトの戦略とアプローチ方法を決定する。
- プロジェクトの学びや教訓を参加者、プロジェクト実施者、ドナー等の間で共有する方法を決める。
- プロジェクト開始後に、ジェンダー平等と包摂の視点からモニタリングや評価ができるリソースパーソンや予算の確保をしておく。
- （パートナー団体との協働の場合）同じ目標を共有し、専門性と能力のあるパートナー団体を見つける。
- スタッフとパートナー団体がジェンダーの基礎知識やジェンダー・トランフォーマティブ・プログラムの知識と実践するスキルを身につける。
- プロジェクトの参加者、スタッフにおける多様性やジェンダー比率を担保する。
- ジェンダー・トランフォーマティブ・マーカーを用いてプロジェクトの設計を評価し、必要に応じて改善する（巻末資料 2「ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー計画時のアセスメント」を参照）

©Plan International

実施・モニタリング

- ベースライン・アセスメントを行い、プロジェクト開始時の指標の数値を確認する。
- データはジェンダー、年齢、必要に応じてその他のグループで分けて収集する。
- ジェンダー平等と包摂に関する課題について、プロジェクトの参加者やスタッフと継続 的な対話と学び、能力強化を行う。
- ジェンダー平等に貢献する部分の指標達成度を確認する（詳細は 29 ページ「変化の 測定」を参照）。
- ジェンダー・トランフォーマティブ・マーカーを用いてプロジェクト実施の中間評価（モニタリング）を行い、必要に応じて改善する（別添資料「ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー実施時のアセスメント」を参照）。

評 価

- プロジェクトの終了時評価を行い、ジェンダー平等に貢献する部分の指標の達成度などを確認する（詳細は 29 ページ「変化の測定」を参照）。
- ジェンダー・トランフォーマティブ・マーカーを用いてプロジェクトの終了時評価をする（別添資料「ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー修了時のアセスメント」を参照）。
- プロジェクトの終了時評価の結果、学びを全ての関係者に共有する。
- プロジェクトからの学びに基づくアドボカシーアクションの形成と実施、プロジェクトのさらなる普及（他地域への拡大など）を検討する。

©Plan International

Section 2 - 2

【計画段階】アセスメントと分析

プロジェクトの計画段階では、まず、ジェンダー平等と包摂についての経済社会的アセスメントおよび分析を行います。プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムでは、以下のジェンダー、包摂、年齢分析フレームワークを用いて、アセスメントと分析を行います。プロジェクトの主目的がジェンダー平等や女の子・女性のエンパワーメントではない場合は、フレームワークのなかで関連性があるものを一部でも取り入れてアセスメントをしてみてください。

ジェンダー・トランスフォーマティブ 6 つの要素、包摂、年齢分析フレームワーク

6つの要素	調査項目	調査項目（詳細） ※年齢と排除されがちなグループ（障害のある人、少数民族、LGBTIQ+ のアイデンティティがある人など）により違いがないか、必要に応じて追加する。
①ジェンダー規範	「権力」、「コントロール」、「地位」、「経済力」など社会的な力（パワー）、役割、関係に関するジェンダー規範は何か。誰が、何のために、どのようにこれらのジェンダー規範を支持、再生産しているのか。	・意思決定に関するジェンダー規範と女の子・女性の地位（家庭や公共の場において意思決定に関するジェンダー規範があるかなど等） ・役割に関するジェンダー規範（女の子・女性、男の子・男性に期待される役割は何か、どの役割にもっとも社会的な価値が見出されているか、期待される役割は年齢によって異なるかなど）他者との関係性に関するジェンダー規範（同性、異性との関わりに違いがあるか、ジェンダーに基づく暴力や、有害な慣習についてどのような考えがあるかなど） ・LGBTIQ+ の人々に対する意識や規範、どのような課題があるのか。（LGBTIQ+ の子どもとユースの支援については、巻末資料 Appendix 3「プロジェクト実施における LGBTIQ+の子どもとユースの権利と安全を守るためのガイド」を参照） ・メディアの役割（メディアによって強化されたり、再生産されている差別やジェンダー規範はあるかなど）
②女の子・女性のエージェンシー	女の子・女性が声をあげ、意思決定、自己決定することへの障壁があるか。ある場合はなぜか。	・自己肯定感、自尊心（女の子・女性は自分の価値を男と子と同等と思っているか、それは年齢により違いがあるかなど） ・自分自身で目標を立て、行動し、意思決定する能力（女の子・女性は意思決定することに対して自信があるか、女の子・女性が自分自身で目標を立て、行動し、意思決定することに対しての阻害要因あるいは促進要因はあるか、それは年齢により違いがあるかなど） ・SRHRと意思決定、自己決定（女の子・女性はSRHRに関する正確な情報へのアクセスがあるか、情報に基づいた意思決定をすることに自信があるか、SRHRに関する必要なサービス（生理用品や避妊具など）の入手ニーズは満たされているかなど）

©Plan International

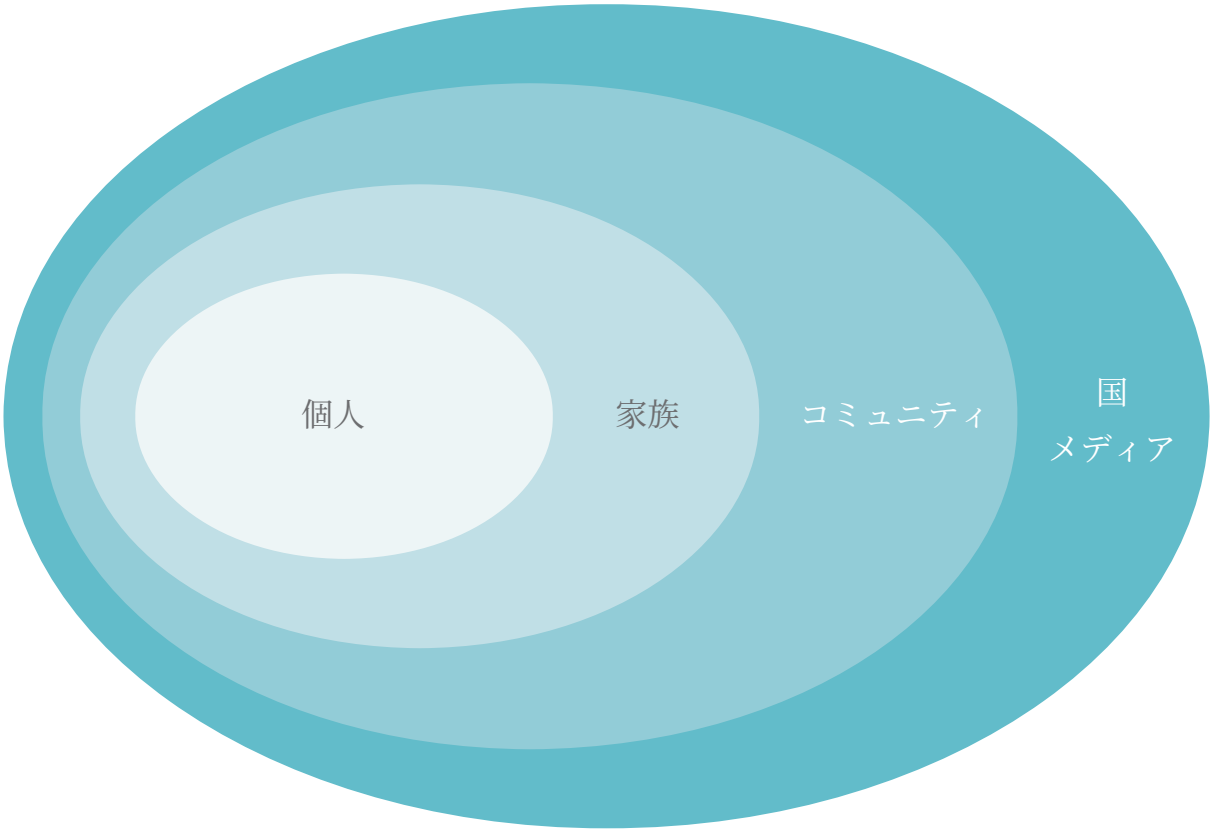
6つの要素	調査項目	調査項目(詳細) ※年齢と排除されがちなグループ(障害のある人、少数民族、LGBTIQ+ のアイデンティティがある人など)により違いがないか、必要に応じて追加する。
③男の子・男性のエンゲージメント	男の子・男性は権利実現の障壁となるもので、ジェンダーに関連したものはあるか。ある場合はなぜか。 ポジティブな男性性を受け入れるためのどのような機会があるか。	・ジェンダー規範（男の子・男性にとって障壁となるジェンダー規範があるか、男の子は自分の価値を女と子と同等と思っているかなど） ・有害な男性性（男の子・男性が支配的になる、暴力的行動を取るようなプレッシャーがあるか、男の子は他者との関係性において暴力を用いらないようにしているかなど） ・ポジティブな男性性とジェンダー平等を受け入れる機会（男の子・男性はジェンダー差別的な態度や行動に反対する他の男子・男性をサポートするかなど）
④女の子・女性の状況（コンディション）と地位（ポジション）	女の子・女性の状況（コンディション）と地位（ポジション）に関する主な課題は何か。なぜ課題なのか。	・資源へのアクセスとコントロールにおけるジェンダー格差（詳細は巻末資料Appendix1のActivity3参照） ・権力のある地位につく女性（コミュニティ、地方、中央レベルなどで、意思決定する立場にある女性の割合など） ・ジェンダーに基づく暴力や有害な慣習からの被害を受けない権利（ジェンダーに基づく暴力や有害な慣習の被害に関してジェンダー別、障害の有無別、年齢別などのデータがあるかなど）
⑤多様性と包摂	ジェンダー平等の実現に関して、特定のグループ（障害のある人、少数民族、LGBTIQ+など）で特に障壁に直面する人たちはいるか。いる場合は、どのような人々で、それはなぜか。	・ジェンダー規範 ・女の子・女性が声をあげ、意思決定、自己決定する能力、選択したことを実現する実現可能力 ・女の子・女性の状況（コンディション）と地位（ポジション） ・ポジティブな男性性を受け入れる機会 ・法律と制度
⑥社会制度と仕組み境	意思決定者や社会サービスの提供者は、ジェンダー平等と子ども（特に女の子）の権利実現のために何をしているか。	・ジェンダー平等の実現を促進する、または阻害する要因となる法的フレームワークや政策 ・ジェンダー平等の実現を促進する、または阻害する要因となる制度的とその実践とサービス ・ジェンダー関係に影響をおよぼす社会的、経済的、政治的、環境的な要因

©Plan International

さらに、この分析結果に基づき、優先的に変えていく必要があるジェンダー規範は何か、以下を確認しながら明らかにしていきます。

- 女の子・女性の状況（コンディション）、地位（ポジション）、エージェンシーを制限している主なジェンダー規範は何か？
- ポジティブな男性性とジェンダー平等を受け入れる能力と意思を阻害している主なジェンダー規範は何か？
- 上記ジェンダー規範のなかでプロジェクトが成功するために重要なものは何か？
- そのなかでも優先的に取り組むべき（変えていくべき）ジェンダー規範は何か？
- 優先的に取り組むべき（変えていくべき）ジェンダー規範を、個人、家族、コミュニティ、国そしてメディアで、どのように働きかけをすれば良いか？キーパーソンとなる人は誰か？

図 2–1. ジェンダー規範を変えるために働きかける 4 つの領域



Section 2 - 3

【計画段階】指標の設定

ジェンダーに関連した成果（アウトカム）に対して設定する指標は、可能な限りジェンダーと年齢で分けるようにします。女の子・女性、男の子・男性、およびそのなかの多様性などにも留意して指標を分けたり、障害がある、少数民族である、LGBTIQ+ であるなどの要素で社会的に排除されがちなグループについて、プロジェクトが包摂を目指す内容がある場合、その指標を設定します。ジェンダー規範（意識や態度）の改善も指標のひとつに入れておくようにしましょう。

表 2-1. 女の子と女性のエンパワーメントにフォーカスしたジェンダー指標の例

分類 1	指標 1	分類 2	指標 2	測定項目の例
ジェンダーに基づく役割と責任	平等な役割と責任の分配を経験している女の子・女性、男の子・男性の割合	時間と負担	女の子・女性、男の子・男性が家事、育児などの無償労働に費やす平均時間	・家事、育児などの無償の家事労働やケア労働に費やす時間 ・家事労働やケア労働以外の無償、有償労働に費やす時間 ・余暇、休み、自由な活動に費やす時間
		ジェンダーに基づく役割と責任への意識と態度	ジェンダーに基づく役割と責任への平等な意識と態度を持った女の子・女性、男の子・男性の割合	・女の子・女性、男の子・男性の有償の生産的労働に対する役割と責任への意識と態度 ・女の子・女性、男の子・男性の無償の家事やケア労働に対する役割と責任への意識と態度 ・女の子・女性、男の子・男性のコミュニティでの役割と責任への意識と態度
アクセスとコントロール	リソースへの適切なアクセスとコントロールができている女の子・女性の割合	アクセス（使用できるか）	リソースへの適切なアクセスができている女の子・女性の割合	・現金、収入、クレジット、社会保障収入へのアクセス ・衣食住などベーシックニーズへのアクセス ・情報や ICT へのアクセス ・ディーセント・ワークの実現 ・職業、技能訓練へのアクセス ・保健、教育などの公的サービスへのアクセス ・交通機関、移動手段へのアクセス
		コントロール（所有・管理できるか）	リソースの適切なコントロールができている女の子・女性の割合	・現金、収入、クレジット、社会保障、資産・財産のコントロール ・ベーシックニーズのコントロール

©Plan International

分類 1	指標 1	分類 2	指標 2	測定項目の例
参加と意思決定	自分たちの人生に関わる事柄についての自己決定ができる / 意思決定に参加できる女の子・女性の割合	世帯での意思決定	世帯での意思決定に関わっている女の子・女性の割合	・世帯内のリソース（収入、食料、資産・財産など）の配分に関する意思決定への関与度 ・結婚・離婚、性交為、家族計画、保健医療サービスへのアクセスなどに関する意思決定の関与度 ・コミュニティ活動（会議、組合活動など）への参加に関する意思決定の関与度 ・世帯レベルでの女の子・女性の意思決定に対する家族の意識と態度 ・世帯レベルでの女の子・女性自身の意思決定能力の認識
		コミュニティ、公共の場での参加と意思決定	コミュニティ、公共の場で意義のある参加（meaningful participation）をしている女の子・女性の割合、または女の子・女性がどの程度コミュニティ、公共の場での参加をしているか	・女の子・女性がコミュニティ、公共のイベントやミーティングに参加できる ・女の子・女性が声を上げることができ、意見を言ったり、意見が尊重される ・女の子・女性がコミュニティ、公共のイベントやミーティングにおける意思決定に影響を与えられる ・コミュニティや公共のイベントやミーティングでリーダーを務めたり、意思決定をするポジションにいる女の子・女性の割合 ・女の子・女性の参加に対するコミュニティのメンバーの意識と態度 ・女の子・女性自身の参加に対する意識と態度
ジェンダー規範	女の子・女性が男の子・男性と平等であると認知されている程度			・女の子・女性の権利（有害な慣習、ジェンダーに基づく暴力、SRHR、早すぎる結婚、強制婚など）に関する知識と意識 ・男の子・男性の女の子・女性に対する価値観（男の子・男性自身に対する価値観との違い、自己肯定感なども含む） ・女の子・女性の女の子・女性自身に対する価値観（男の子・男性に対する価値観との違い）
義務履行者（保護者、政府など）と制度	義務履行者と制度のジェンダー平等と包摂への対応レベル			・ジェンダー平等に関わる各種の法律、制度、政策、ガイドラインなどの内容の修正や刷新 ・ジェンダー平等や包摂の視点に立った、公共サービスの内容（質と量）や提供方法の変化

©Plan International

【女の子・女性の地位が向上するための活動のヒント】

✓村長などのコミュニティリーダーや、プロジェクト活動のグループリーダー を 女性が 務めることを支援し、意思決定に関わる女性が増えることを、クオータ制（一定の割合を女性に割り当てる）などを使って推進する。そのなかでも特に障 害 がある、少数民族であるなどの理由でリーダーになる機会が少ない女性を優先的に選出する枠などを設ける。
（コミュニティの人々の理解が得られるようによく話し合うことが必要）

✓女の子と女性が主に 担っている 長時間で無償の 家事 労働や 育児・介護などのケアワークを男の子と男性も分担するような啓発活動やジェンダー研修を事業の一部として実施する。その際、「 家事・育児は女の子と女性がする 」というジェンダー規範と 固定的な 性別役割分業を変え るような取り組みをしないと、女性は家の中と外での仕事の二重負担や、母親が外で働く代わりに娘が家の手伝いするため学校に 行けない、などの意図してない結果を招く 可能性がある ことを理解してもらう 。

✓ 集会やミーティングでは、女の子や女性がその場にいるだけの「参加」でなく、意見を述べ、その意見が受け入れられるようなファシリテーションや意図的な仕組みづくりが必要である。また、女の子や女性が自己肯定感を高め、自信を もてたり、意見が言えるようになるための支援として、ライフスキル・トレーニングやリーダーシップ・トレーニングを行ったり、自分でも気づかない無意識の偏見や差別、女の子・女性は「従順でおとなしくいるべき」というジェンダー規範を覆すようなコミュニティのロールモデルを見つけて意識啓発することも有効である。



©Plan International

表 2-2. 妊産婦・子ども死亡率減少を目指すプロジェクト（第 3 章の好事例集で紹介）で使われている指標の例

指標（世帯レベル）
妊娠中に技能を要する医療従事者により、少なくとも 4 回の出生前ケアを受けた 15 歳～ 19 歳、20 歳～ 49 歳の女性の割合
麻疹の予防接種を受けた 12 カ月から 23 カ月の子どもの割合（男女でデータを分ける）
技能を要する医療従事者の立ち合いにより出産した人の割合（母親の年齢によりデータを分ける）
出産から 2 日以内に産後ケアを受けた母親と乳児の割合（母親の年齢によりデータを分ける）
一連の出産ケアに関して、少なくとも 2 つのリスクを示す兆候とその対処方法を知っている出産年齢の女性（年齢によりデータを分ける）とその男性の家族の割合
妊産婦・新生児保健と SRHR に関連したジェンダー平等に関する知識を知っている出産年齢の女性（年齢によりデータを分ける）とその男性の家族の割合
妊産婦・新生児保健と SRHR サービスの活用のため、男性の家族がサポートする平均的なレベル
コミュニティの自助グループの女性メンバーの割合（年齢とグループの種類でデータを分ける）
出産年齢の女性(年齢によりデータを分ける)と、その男性の家族の妊産婦新生児保健と SRHR サービス（質と対応）に対する平均満足度
指標（保健施設レベル）
コミュニティ・ヘルス委員会メンバーの女性比率
コミュニティ・ヘルス委員会のリーダーの女性比率
男女の異なるニーズに対応し、思春期の女の子・男の子が利用しやすい妊産婦・新生児保健と SRHR サービスを提供する施設の割合 ※妊産婦・新生児保健と SRHR の制度とサービスがどの程度ジェンダーの視点に立ち、優先事項に対応しているか、サービス提供者と利用者の関係が差別のない、信頼、尊重、尊厳を基にした関係性になっているか、施設の環境、インフラ、紹介システムがどの程度包摂的で、出産年齢期の女性の男性パートナーが利用しやすいかをみる。
世帯別のモニタリングデータを収集している地域の割合
データが記録・管理されている施設の割合

男性のケアワーク

男性が、無償の家事労働や育児・介護などのケアワークを積極的に行うことは、ジェンダー平等達成のため、また子どもやパートナーとの関係性においても非常に重要な要素です。2014 年に 66 カ国で行われた調査※8 では、女性は無償の家事労働や育児・介護などのケアワークを平均して男性の 3 倍の時間を費やしており、国によっては 10 倍の時間を費やしていました。大半の国で男性が子どもと過ごす時間は女性よりも少なく、特に子どもが乳児の時の関わりが低いことが判明しています。

※8 : Samman E., Presler-Marshall E., Jones N. et al. (2016) 'Women's work: Mothers, children and the global childcare crisis', London: Overseas Development Institute

©Plan International

【男性が無償の家事労働や育児・介護などのケアワークに参加する活動のヒント】

✓コミュニティ・ヘルスケアワーカーやサービス提供者と協働で「父親グループ」、「男性グループ」をつくり、男性の妊産婦・新生児保健サービスへの関わり、ジェンダー平等について啓発活動を行う。

✓妊産婦・新生児の検査には男性パートナーや男性の家族が同伴することを促進する。

✓世帯訪問やコミュニティでのミーティングを通して男性と直接顔を合わせて話すことを試みる。

✓コミュニティにおける幼児の遊び・学びの場で、男性が父親・養育者、教育者として関われる活動を支援する。

✓男性の幼児保育への参画を促進する活動にコミュニティの宗教リーダーなど影響力がある人に協力してもらう。

✓男性が家事労働や育児・介護などのケアワークを積極的に行うことの障壁となっている「女性は家で家事・育児をする」、「男性は外で働く」といったジェンダー規範を変える啓発活動を行う。

✓ 男性が積極的に妊産婦・新生児保健や幼児保育に関われるようにアドボカシー活動をする。



©Plan International

Section 2 - 4

【実施・評価段階】変化の測定

ジェンダー規範の変化測定

量的変化の測定

ジェンダー規範（意識・態度）の変化を定性的（質的）に把握するだけでなく、定量的に測定することも必要です。そのための方法として、プロジェクトの参加者にアンケートで以下のような「意見」に対して「そう思う」か、「思わない」かを聞く方法があります。回答にポイントをつけて、「1. そう思う（3 ポント）、2. どちらかといえばそう思う（2 ポイント）、3. どちらかといえばそう思わない（1 ポイント）、4. そう思わない（0 ポイント）」に関して、合計ポイントの平均値を出し、プロジェクト開始時と、実施時、終了時の平均値の変化（ジェンダー規範の変化）を測定することができます。または、プロジェクト開始時、実施時、終了時に他の質問と一緒にいくつかジェンダー規範に関する質問をして、例えば「そう思う」、「そう思わない」などの回答の割合（%）の変化を測ることもできます。



©Plan International

表 2-3. ジェンダー規範・態度測定のためのアンケートの調査項目 例

✔を記入してください。1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない

調査項目	1	2	3	4
男性の方が女性より村長に向いている		✔		
女の子・女性の方が男の子・男性より家事・育児に向いている	✔			
家事・育児を主にするのは母親であるべきだ			✔	
お金を稼いでくるのは主に夫であるべきだ				✔
妻は常に夫に従うべきだ				
家庭での意思決定は主に夫が行うべきだ				
コミュニティでの会合は主に夫が参加すべきだ				
コミュニティでの決め事 は 主に男性がすべきだ				
状況によっては夫が妻を叩いたり、殴ることが必要な時もある				
「本物の男」は泣くべきではない				
男の子の方が女の子よりスポーツが生まれつき得意だ				
男の子の方が女の子より科学や数 学が生まれつき得意だ				
男の子の方が女の子より学級委員長に向いている				
男の子は女の子より強くあるべきだ				
女の子は男の子より弱い存在だ				
男の子は いたずら好きだ から女の子に性的なからかいをしても仕方ない				
どちらか選ばなければいけない場合、娘より息子が学校へ行くべきだ				
女の子は若さに価値があるので早く結婚した方が良い				
状況によっては交際中の男女間で、彼氏が彼女を叩いたり、殴ることが必要な時もある				
露出が高い服を着ている女の子・女性は性暴 力の被害に遭っても仕方ない				
女の子・女性は従順であるべきだ				
合計点				

このようなアンケートは、男女双方に対しておこない、男性と女性の傾向や差異をそれぞれ把握することが必要です。また、アンケート実施の際に留意しなければいけないのは、回答者が実際にそう思っているわけではないけれど、「何が正しいか」、「何が望ましいか」、「何が期待されているのか」などについて考えて、本音ではなく建て前の回答をするような可能性があることです。そのため、少しでも実態に近いアセスメントと評価ができるように、実際に思っていることを答えてもらうように促したり、注意深く観察したり（参与観察）、個別のインタビュー調査やフォーカス・グループ・ディスカッション（FGD）など、多様な情報収集の仕方を組み合わせて、データや情報を収集することが必要です。

©Plan International

【ジェンダー規範を変えるための活動のヒント】

✓どのようなジェンダー規範があり、 それらのジェンダー規範が具体的にコミュニティでどのようなポジティブ、ネガティブな影響を男女それぞれに及ぼしているかを参加型のワークショップ、 話し合いを通して明らかにする。

✓ワークショップでは参加者自身から変わることができるように、「個人的な」関係（家族や友人との関係など）や経験を振り返り、 個々の考えを共有できるようにする。

✓ジェンダー規範は、「場所、 時代により多様である」、そして変えようと思えば「変えることができる」ような社会的な価値観や考えであるということを理解してもらう。

✓ジェンダー規範や固定化された役割を変えるポジティブなロールモデルを参加者自身に考えてもらい、 その実現の方法を一緒に考える。

✓それぞれの地域や社会の文化や文脈を尊重しつつ、どのようにジェンダー規範を変えることができるかについて、 参加者と一緒に考える。

質的な変化の測定

ジェンダー課題に対する意識、態度、行動の変容を質的に捉える手法の一つとして、モスト・シグニフィカント・チェンジ（Most Significant Change MSC）※9 という手法があります。MSC は、参加者が変化のストーリーを語るという 、参加型のモニタリング・評価手法として、多くの NGO で採用されており 、以下のような特徴があります。

- 参加型ツールである
- 「ストーリー」 の共有
- モニタリング時、 終了時評価の際に使える
- 複雑な内容のプロジェクトに適している
- 参加者の主観的な視点を重視
- 参加者だけでなくプロジェクト実施者 （NGO） の学びも重視
- ログフレーム上のアウトカムや指標でカバーされていない想定外の成果が確認できる

※9 : MSC の 詳 しい 実施方法 はこちらを 参照 : Davies, Rick. (2015). “The ‘Most Significant Change’ (MSC) Technique: A Guide to Its Use” . https://www.mande.co.uk/wp-content/uploads/2005/MSCGuide.pdf

©Plan International

MSC ストーリーを語るのは、プロジェクトの参加者です。ただし、ストーリーを集めるのはプロジェクトの参加者自身（学校の生徒や教員コミュニティのグループ、ヘルスワーカーなど）の他に、プロジェクトスタッフ、評価をする時のコンサルタントなどの場合があります。ストーリーを集めるチームをつくり、そのチームは、事前に MSC 手法やインタビュースキル（インタビューの方法など）についてトレーニングを受ける必要があります。

【MSC ストーリーを聞くときの質問内容 】

1 プロジェクトが始まってからの _____（期間）で、_____ に関して、あなたにとって最も重大な変化は何ですか？

2 プロジェクトの活動は、その変化にどのような関わりがありますか？

3 その変化は、どうしてあなたにとって最も重大な変化なのですか？

4 このプロジェクトの活動以外に 、その変化が起きる 要因 になったことはありますか？

MSC ストーリーを集めるチームが、集めたストーリーを共有し、「 MSC ベスト・ストーリー」を投票で選ぶプロセスを踏むこともできます。このプ ロセスにより、プロジェクトの 参加 者やプロジェクトスタッフが 、変化についてより深く考え、学ぶ機会になります。

©Plan International

Section 2 - 5

【計画・実施・評価段階】ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーによるアセスメント

プランでは、プロジェクトがどの程度ジェンダー・トランスフォーマティブであるか、計画、実施、モニタリング・評価のすべての段階でアセスメントを行います※10。アセスメントは、ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー（巻末資料 2 参照）というエクセルのツール※11 を使って、設定された項目ごとの自己評価を行います。

計画の段階では、プロジェクトの内容に精通したスタッフ、プロジェクトの企画書の作成を担当しているスタッフ、ジェンダーの専門知識があるスタッフなどが共同でアセスメントを行うことにより、プロジェクトの共通認識を持つとともに、プロジェクトの「設計」がよりジェンダー・トランスフォーマティブになるための改善点を見出すことができます。また、プロジェクトの実施中は、中間評価時にアセスメントを行うことで、計画と実施の差異がないか、改善できることは何かを確認することができます。そして、終了時評価時に、アセスメントを行うことで、プロジェクトがどの程度ジェンダー・トランスフォーマティブであったか、その具体的な結果（output）は何かなどについて確認するとともに、今後に生かすための成果（outcome）や学び（lessons learnt）を確認します。

表 2-4 ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーでのアセスメント項目

調査項目	調査項目
A 10%	状況分析
B 65%	B1 ジェンダー規範
	B2 女の子・女性のエージェンシー
	B3 男の子・男性の エンゲージメント
	B4 女の子・女 性の状況（ コンディション）と地位（ポジション）
	B5 女の子・女性、 男の子・男性の包摂と多様性
	B6： 社会制度と仕組み
C 25%	C1： モニ タリング・評価のデータ
	C2 リスク
	C3 参加
	C4 専門性
	C5 リソース

※10：開発プロジェクトのうち、6 カ月未満の場合は計画時のみ、6 カ月から 1 年未満の場合は、計画時、実施時のみ、1 年以上の場合は、計画時、実施時、評価時のすべての段階で ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカーを用いてアセスメントをします。
※11：エクセルでスコア計算と評価（ジェンダー・アンアウェア、ジェンダー・ニュートラル、ジェンダー・アウェア、ジェンダー・トランスフォーマティブの 4 段階）が自動で行われる設計。

©Plan International

【ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの 4 つのレベル】

ジェンダー
アンアウェア

ジェンダー
ニュートラル

ジェンダー
アウェア

ジェンダートランス
フォーマティブ



©Plan International



ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの実践例

この章では、プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの実践例をいくつか紹介します 。

Good Practices of Gender-Transformative Programs

Chapter 3

©Plan International

Section 3 - 1

ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの好事例集

Good Practice 1

事例1.ラオスの学校でのジェンダー平等促進プロジェクト

プロジェクトの概要

実施国： ラオス

実施期間： 2016〜2019 年（3 年間）外務省 NGO 連携無償資金協力プロジェクト

プロジェクト目標： 学校でジェンダー平等を促進し、より多くの女子が改善された環境で中等教育を受けられるようになる。

ターゲットグループ： 少数民族が多い地域の中学校、高校の生徒と保護者、教員

参加者数： 11 校の生徒約 4,876 人（女の子 2,291 人、男の子 2,582 人）、教員 265 人（うち女性 98 人）、保護者 64 人（うち女性 12 人）

主な活動： 教員、子どもクラブリーダー、保護者代表へのジェンダートレーニング、子どもクラブリーダーによるピア（他の生徒）や保護者への啓発活動、ジェンダーに基づく暴力相談・通報窓口設置トレーニング、学生寮の建設、施設の維持管理トレーニング

ジェンダー・トランスフォーマティブの要素

【ジェンダー規範、包摂と多様性】

ジェンダートレーニングでは、地域に深く根差したジェンダー規範について話し合った。また、学校やコミュニティにおけるジェンダー平等と包摂についての分析を通して、どのようなジェンダーギャップ、不平等や排除があるのか、参加者が考えた。教員へのトレーニングには LGBTIQ+についてのトピックも取り入れ、生徒のセクシュアリティの多様性を受け入れ、包摂を促進した。

【女の子のエージェンシー、男の子のエンゲージメント、状況・地位の改善、包摂と多様性】

生徒が他の生徒やコミュニティ住民に対してジェンダー平等について啓発する「子どもクラブ」を作った。その活動では、クラブリーダーは男女半々で担当し、女子生徒も男子生徒もリーダーシップを発揮した。子どもクラブのリーダーには、トランスジェンダーが直面する差別について啓発するトランスジェンダー当事者の生徒もいた。

【ジェンダー規範、男の子のエンゲージメント】

子どもクラブの活動では、男子生徒もジェンダー平等、ジェンダーに基づく暴力についての啓発活動を行った。

©Plan International

プロジェクトの成果、課題と学び

- プロジェクトの終了時評価から、生徒や教員のジェンダー平等に関する意識の変化が確認できたが、行動変容を起こし、それを持続させるには 3 年というプロジェクト期間は短すぎることがわかった。
- 子どもクラブのリーダーによるピア（他の生徒）や保護者への啓発活動は、子どもの主体的な活動を促進し、低コストで大人数にリーチできる効果的なモデルである。
- プロジェクトの全対象校（11 校、生徒数約 4,876 人 ）でジェンダー平等実現に向けた具体的アクションが取られた。例えば、学級委員長の女子生徒の比率がプロジェクト 1 年目の平均では 35%と低かったことから、学校での選定プロセスの見直しや啓発を行った結果、終了時は平均 60%まで向上した（図 3-1. 参照）。
- 生徒の暴力に関する意識を測定したデータでは、プロジェクト開始前と比較して、プロジェクト終了時の暴力行為を暴力として認識するスコアが、特に男子生徒の間で向上した（グラフ 2 参照）。このデータは、生徒 200 人を対象に、10 項目の暴力ケース（例）について、1. 暴力ではない～ 5. 非常に暴力的であるのスコア付けをしてもらい、結果の平均値を出したものである。特に意識が向上（より暴力として認識するようになった）したケースは、「同意なしに相手の身体を触る」、「トイレを覗く」、「性的な写真を見せる」などであった（図 3-2. 参照）。

図 3-1. プロジェクト対象校における女子学級委員長の比率

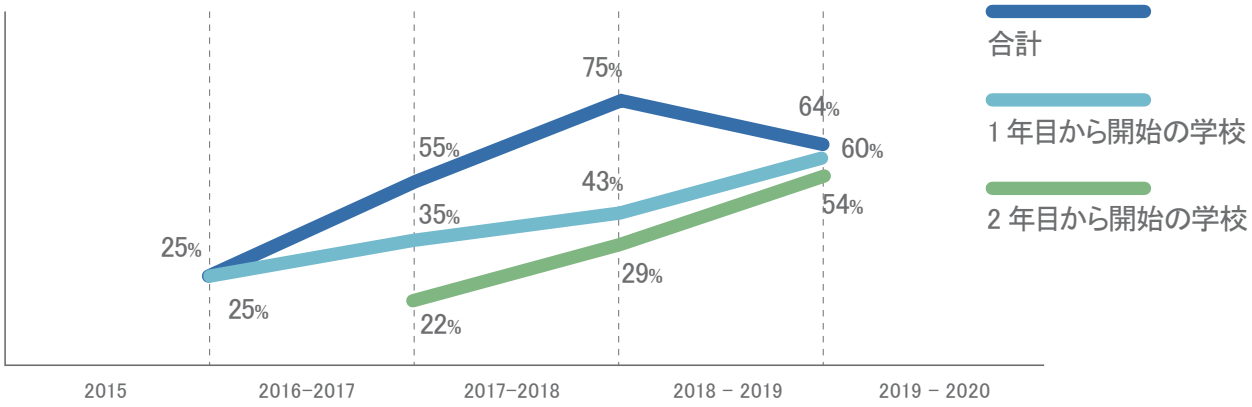
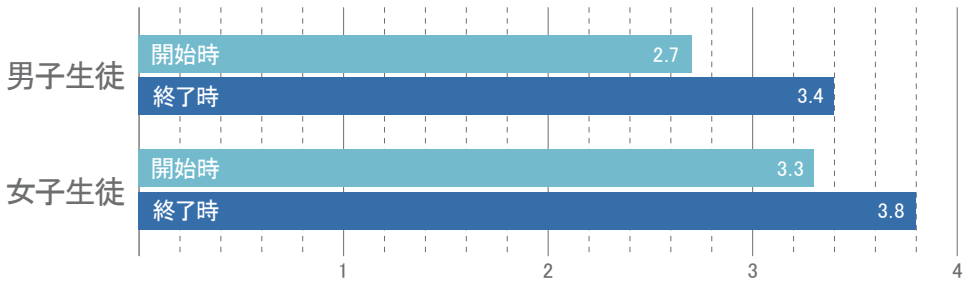


図 3-2. プロジェクト対象校における暴力に対する生徒の認識



- ただし、障害のある生徒や LGBTIQ+の生徒への包摂に関する意識の改善はみられなかった。啓発の内容に少数民族の生徒、障害 のある生徒、LGBTIQ+の生徒の包摂の内容は少し入っていたものの、積極的な取り組みがなされなかったことが原因である。プロジェクトに包摂の指標を入れ、参加者への意識啓発をプロジェクトのなかで入れていく必要がある。

©Plan International

プロジェクトで使われたジェンダーと包摂の啓発ツール

プロジェクトでは、生徒間で使える啓発ツールとしてジェンダー平等・不平等、差別、暴力の例をイラストで表したピクチャーカードを作成。カードの裏にはファシリテーターがディスカッションをすすめるための質問や、説明が記載されている。他にもポスター、生徒による演劇、歌などを通して学校とコミュニティでの啓発活動が行われた。

【ジェンダーと包摂に関する啓発ツール】

（これらのピクチャーを参加者に見せてディスカッションをおこなった）



学校でのジェンダー不平等



学校でのジェンダー平等



障害のある生徒への差別



トランスジェンダーの生徒への差別



少数民族の子どもの包摂



コミュニティのジェンダー平等（女性の参加）

©Plan International

参加した女の子の声



チャンディー
子どもクラブリーダー、
当時 中学 3 年生、写真右

プロジェクトが始まってから起きた最も大きな変化は、自分自身の考えです。私はモン族です。モン族の文化では、娘より息子の方がかわいがられます。私にも兄弟と姉妹がいますが、両親は兄弟の方を大切にしていると感じます。でも、子どもクラブのリーダーになってから、ジェンダー平等について学びました。男の子も女 の子も、同じ教育を受けることができるということを。さっそく両親にそのことを伝えましたが、冗談を言っていると思ったようで全く聞き入れてもらえませんでした。でもあきらめずに何回も両親に話をするうちに信じてもらえるようになり、高校へ進学することをサポートしてもらえるようになりました。

©Plan International

Good Practice 2

事例 2 ジェンダー平等達成のためのユースエンゲージメント・プログラム「チャンピオン・オブ・チェンジ」※12

プロジェクトの概要※13

実施国： 40 カ国で 60 プロジェクトを実施

実施期間： 2014 年 ～今後も継続

プロジェクト目標： ユースエンゲージメントを通したジェンダー平等促進と社会規範の変革

ターゲットグループ： ユース

参加者数： 2014 年から現在までの合計女の子 51,285 人、男の子 48,106 人

主な活動： ユーストレーニング、ユースによる啓発・アドボカシー活動

プランは、14 歳～18 歳の男の子の ジェンダー平等のためのエンゲージメントを主目的とした「チャンピオン・オブ・チェンジ」というプログラムを 2012 年～ 2014 年に、エルサルバドル、グアテマラ、ドミニカ共和国、ホンジュラス、ドイツの 5 カ国で試験的に実施した。後に、女の子も対象者に加え、女の子のエンパワーメントを目的とした活動も実施し、ユース男女が変化の担い手となってジェンダー平等を促進する活動として、現在 40 カ国で実施されている。トレーニングカリキュラムは、合計 120 時間におよび、参加型で行われる自己の振り返りと対話を通して、ジェンダー規範が男の子・男性にどのような社会的特権や制限を及ぼしているか、ジェンダーに基づく暴力や差別をなくすための男の子・男性の役割は何か、などを考えて意識と行動変容を促す。最終的には、ユースが啓発や政策提言活動を実施 し、ジェンダー平等のためのムーブメントを起こすことを目指す。また、スポーツ、芸術、音楽などの活動を用いることで ユースの関心を引き、活動参加の動機付けや持続を高めるアプローチを取っている。

※12：「チャンピオン・オブ・チェンジ」のモジュールとファシリテー ターマニュアルはこちらからダウンロードできます https://ww.alignplatform.org/resources/champions-change-youth-promoting-gender-equality

※13 2020 年 5 月時点での情報。プロジェクトの約3割はチャンピオン・オブ・チ ェンジを単独で実施し、残りの 7 割は簡素化したチャンピオン・オブ・チェンジのトレーニングをプロジェクトの中に統合している。



©Plan International

表 3–1. チャンピオン・オブ・チェンジのカリキュラム

女の子のエンパワーメントカリキュラム	男の子のエンゲージメントカリキュラム
自信を持って自己主張する	連帯感をもつ
ジェンダーの意識をもつ （ジェンダー、ジェンダーステレオタイプ、パワー、家族とコミュニティ、女の子であること）	若い男性であること （アイデンティティ、ジェンダー、パワー、若い男性であること、変革への道筋）
自身の身体に自信を持つ、ステレオタイプイプ	セクシュアリティに責任をもつ
SRHR	個人的な関係で非暴力な人間になる
ジェンダーに基づく暴力からの解放	変化の担い手になる
経済的エンパワーメント	

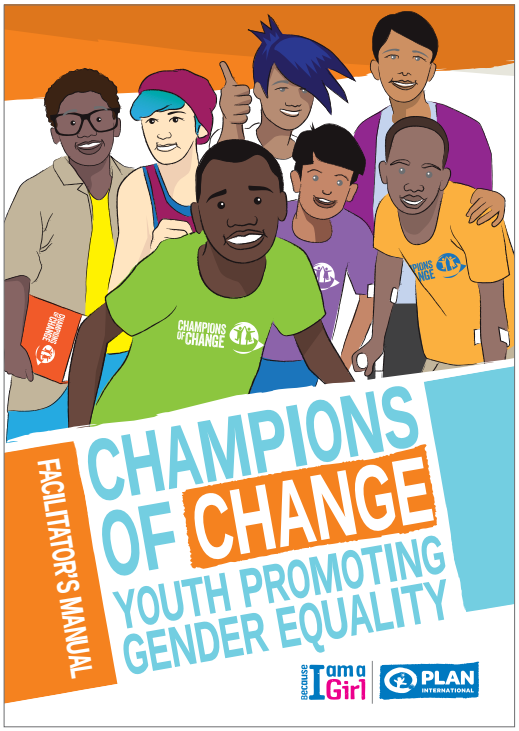
ジェンダーに関する対話

※「早すぎる結婚」、「公共の場での安全」、「ジェンダー・トランスフォーマティブ・アドボカシー」などもカリキュラムに含まれることもある。

ジェンダー・トランスフォーマティブの要素

【ジェンダー規範、女の子のエージェンシー、男の子のエンゲージメント】

長期にわたるトレーニングを通して、女の子が声をあげ、意思決定、自己決定する能力を高めるためのエンパワーメント、男の子がジェンダー平等を達成するための変化の担い手となるエンゲージメントの促進に取り組んでいる。トレーニングでは、対話や自己の振り返りを通して、ジェンダー規範、ジェンダー間の不均衡な力関係に気づきを起こさせるようにした。



【社会制度と仕組み】

政府への働きかけなどユースがアドボカシー活動を行う。

©Plan International

プロジェクトの成果、課題と学び

- エルサルバドル、グアテマラ、ドミニカ共和国、ホンジュラス、ドイツの 5 カ国で実施した試験的プロジェクトの終了時評価では、男性のジェンダー規範・態度を測定するジェンダー平等な男性スコア（Gender Equitable Men Scale:GEMS）※14 のスコアのうち「男性の子育て、暴力、SRHR」の項目で、ドイツ以外の 4 カ国でプロジェクト開始前に比べて改善が見られた。ドイツで改善が見られなかった理由として、他の国ではやる気がある男の子をプロジェクトの参加者として選定したのに対して、ドイツでは特に意欲が高くなかった生徒を先生が選んだというプロセスの違いが挙げられる。プロジェクトに参加するユースは、トレーニングの後に、コミュニティで啓発やアドボカシーを行う役割を担うため、選定の条件としてやる気やポテンシャルが重要となる。

- 試験的プロジェクトでは、男の子だけを対象に行ったが、女の子の参加や、ジェンダー間の学び合いが大切であることから、男女対象へのプログラムへと変化した。カリキュラムは男女で分かれているが、男女が交流する対話や活動も実施する。

- コロンビアとウガンダの調査から、やる気があるユースが他のユースへの働きかけ（ピア活動）、メンターやロールモデルになることは非常に効果的なアプローチであることが分かった。また、家庭で子どもと親がジェンダーに関する考えで対立することがあるため、保護者を巻き込んだ活動の必要性がある。

- 障害のあるユースなど、より多様性や包摂性の視点に立った最善のアプローチ方法を取り入れるため、現在ガイドブック開発のための調査を行っている。

参加した男の子の声



ルシアーノ
19 歳、プロジェクトに参加した
ブラジルのユース

女性が暴力の被害に苦しむのを止めるためには、子どもが早い段階から、なぜ暴力は許容されるべき行為ではないかを学ばなければいけません。ジェンダー平等を促進するプロジェクト、教育、話し合いなどの方法を通して子どもに教えることができます。僕の父親は暴力的で、家で暴力を目撃してきました。暴力は「文化」のようなものです。僕に子どもができたら、父親としてまったく別の接し方をすると決めました。

※14：Promundo というプランのパートナー団体が開発したツール。詳しく知りたい方はこちらを参照 https://promundoglobal.org/resources/measuring-gender-attitude-using-gender-equitable-men-scale-gems-in-various-socio-cultural-settings/

©Plan International

Good Practice 3

事例 3 女性と子どものための保健プログラム

プロジェクトの概要

実施国： ナイジェリア、ハイチ、バングラデシュ、ガーナ、セネガル

実施期間： 2016〜2021 年（5 年半）

プロジェクト目標： 支援が行き届いていない地域の 妊産婦・子ども死亡率減少へ貢献する

ターゲットグループ： 対象地域の女の子・女性 、男の子・男性、父親クラブ、母親支援グループ、女性グループ、宗教リーダーなど

参加者数： 女の子・女性 1,509,998 人、男の子・男性 865,940 人

主な活動： 妊産婦・新生児保健と SRHR 、ジェンダー平等の啓発活動、父親クラブ、10 代の女の子、男の子へのアウトリーチとピアサポートグループ、コミュニティのロールモデルおよび宗教リーダーのトレーニング、母親支援グループ、女性グループ、貯蓄・ローングループ

ジェンダー・トランスフォーマティブの要素

【女の子・女性のエージェンシー、状況・地位改善】

妊産婦・新生児保健と SRHR の知識と意識向上、思春期の女の子へのアウトリーチとピアサポート、女性の参加とリーダーシップ促進、女性の貯蓄・ローングループ、女性グループを通した女の子と女性の社会的、経済的なエンパワーメント。

【ジェンダー規範、状況・地位改善】

早すぎる結婚、女性性器切除（FGM）などの有害な慣習、ジェンダーに基づく暴力の予防活動。

【ジェンダー規範】

ジェンダー・トランスフォーマティブな社会・行動変容コミュニケーション（Gender Transformative Social and Behavior Change Communications ）手法を用いた啓発活動。

【ジェンダー規範、男の子・男性のエンゲージメント】

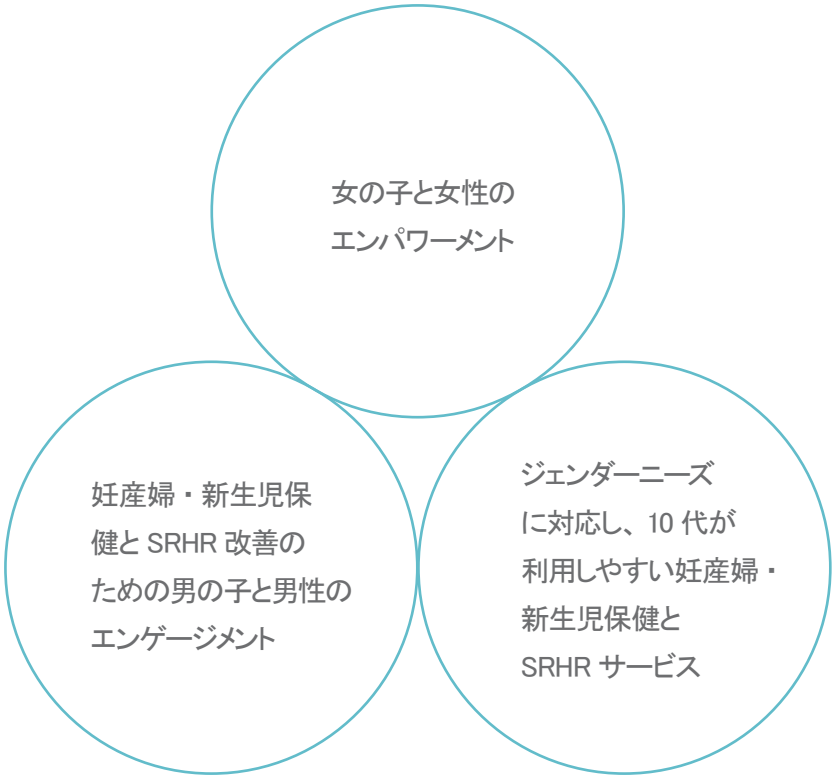
父親クラブ、思春期の男の子へのアウトリーチとピアサポート活動を通して、男の子と男性が主体的に子育てに関わり、ジェンダー平等促進するように支援する。

【社会制度と仕組み】

妊産婦・新生児保健とSRHRの制度・サービスがジェンダーの視点に立って対応するよう改善する取り組みがある。

©Plan International

図 3–3 プロジェクトにおけるジェンダー平等を目指した 3 本柱



宗教リーダーへのアプローチ



コミュニティで影響力が大きい宗教リーダーへの働きかけを通して、妊産婦・新生児保健とSRHR、ジェンダー平等について啓発を行うことは、効果的なアプローチです。以下はナイジェリアでイスラム教のリーダーを対象にしたトレーニングのカリキュラムです。イスラム教の教えに基づき、ジェンダー平等の考えをコーランから引用することで、ジェンダー平等に対する抵抗感を低くすることを目指しています。

- イスラム教の観点から見る妊産婦・新生児保健の課題
- 妻のすべての権利を保障する勇敢な夫
- 一連の出産ケアに関する女性へのサポート
- イスラム教が誕生する以前の女性の社会的地位
- 家庭での女性の意思決定に関するイスラム教の見解
- 女性の権利を奪う行為の禁止
- 適切な薬物療法
- 家族計画と妊娠の間隔

©Plan International

プロジェクトの成果、課題と学び

このプロジェクトは、2020 年 12 月現在、実施中のため、モニタリングや中間評価で明らかになった点を以下に挙げる。

- バングラデッシュ、ハイチ、ナイジェリアでは、妊産婦・新生児保健と SRHR サービスの活用のための、男性の家族によるサポートレベルが向上した。
- 父親クラブでは、参加者の家事・育児の関与レベルの向上、家庭での夫婦の関係性の改善が確認された。
- ジェンダー平等に関する知識・意識は、国によってほとんど改善が見られなかったため、トレーニングの啓発ツールの見直しが行われ、よりジェンダー規範や役割について啓発する内容に修正された。
- コミュニティ・ヘルス委員会においてクオータ制（一定の女性をメンバーやリーダーに割り当てる）を導入することにより、メンバー、リーダーの女性比率が全体的に向上した。ただし、セネガルでは、プロジェクトの途中で保健省がクオータ制度を廃止したため、女性リーダーの比率は、プロジェクト開始時より低下した。このことからも、プロジェクトでは、クオータ制度の重要性が再認識された。
- 男性のエンゲージメントの分野において、専門性の高いパートナー団体と組むことで、父親クラブの活動のガイドラインやカリキュラム制作で高い質を確保できた。
- ジェンダー規範を変えようとするジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムの実践には、プロジェクトを実施する団体のスタッフの高いスキルが必要になるため、ジェンダー平等に関する・専門的スキルの向上のための十分な投資が必要となることが確認できた。

©Plan International

【プロジェクトで使われている教材・啓発ツール】



FGM（女性性器切除）について啓発する
ピクチャーカード（セネガル）



母親の家事・育児の負担について
啓発する教材（ガーナ）



父親クラブのマニュアル（バングラデシュ）



父親クラブのマニュアルのなかの
アクティビティ（共通）



DV（家庭内暴力）について
啓発するツール（ハイチ）



男性のエンゲージメントを
促す啓発ビデオ（バングラデシュ）

©Plan International

Section 3 - 2

プロジェクト分野ごとでジェンダーを統合した実践例

プランの7つの優先的分野における活動例

1. 質の高い包括的教育

- 教員、生徒、保護者、地域の教育行政官などへのジェンダー&包摂トレーニング実施
- ジェンダー平等な学校づくり（学校の環境、管理、カリキュラム、インフラの改善）
- 少数民族、障害のある子どもの教育支援
- 障害のある子どものためのバリアフリーな施設建設
- 女の子にとってより安全で快適な施設建設

2. 若者の生計向上

- ユース主体の学校やコミュニティにおける ジェンダー平等に関する啓発活動
- 若い女性の経済エンパワーメント（職業訓練やビジネスサポート）
- 女性への生計向上支援の場合は、家族の男性も対象にジェンダー平等のトレーニングを実施
- 職業訓練にライフスキルとジェンダーと包摂のトレーニングを組み入れる
- 自助グループ、貯蓄グループ、ローン融資グループなどに女性、障害のある人、少数民族などのリーダーを増やす活動

3. 子どもと若者の社会参加

- ユース主体の学校やコミュニティでのジェンダー平等に関する啓発
- 女の子の エンパワーメント と男の子の エンゲージメント を促進

4. 性と生殖に関する健康と権利（SRHR）

- SRHR のトレーニングや啓発に、ジェンダー平等、多様なセクシュアリティ（ LGBTIQ+)、ジェンダーに基づく暴力について の内容を 統合
- ジェンダーの視点から早すぎる 結婚・妊娠や F GM など の予防

5. 子どもの健やかな成長（就学前教育）

- 教員、地域の教育委員会や教育行政官へのジェンダートレーニング
- ジェンダー規範を押し付けない就学前教育（女の子と男の子のおもちゃや遊びを分けないなど）

6. 暴力からの子どもの保護

- ジェンダーに基づく暴力 からの保護・予防
- 子どもに対する暴力防止のために活動している機関へのトレーニング

7. 緊急支援

- 生理用品配布、生理衛生管理サポート
- SRHR の啓発
- ジェンダーに基づく暴力からの保護・予防

©Plan International

公衆衛生プログラムにおけるジェンダーと包摂の統合：CLTS+（ラオス）



Gender and Wash Monitoring Tool※15

プランは、住民主導による総合的な公衆衛生（Community-Led Total Sanitation, 以下「CLTS」）というアプローチを用いたプロジェクトをさまざまな国で実施してきました。住民が自ら気づくことをサポートし、衛生知識の普及、屋外排泄廃止、住民による自発的なトイレ建設を実現することが、主な活動内容です。

その後、CLTS には、ジェンダーと包摂の要素が加わり、女性や障害のある人々の参加やジェンダー平等を促進する「CLTS+」（「+」がジェンダー平等や包摂を指向していることを意味する）に進化しました。

水・衛生の改善のための活動、意思決定におけるジェンダー役割の向上、コミュニティでの女性の活動参加レベルの向上、コミュニティでの女性のリーダーシップの向上、障害のある人々が CLTS+ の活動に参加できるようになるための活動などを行っています。

女性の経済的エンパワーメントとジェンダーと包摂の統合：バングラデシュ



プランは、バングラデシュにおいて、農業など限られた生計手段しかなく、もっとも弱い立場に置かれ、困窮した生活を強いられている女性の経済的自立を目的とした活動を行なっています。具体的な活動として、職業技術訓練（農業、畜産業、漁業、製パン、小売り、仕立てなど）、ライフスキル研修（リーダーシップ、貯蓄、新型コロナウイルス対策など）、ジェンダーに関する意識啓発、政府機関や企業との連携活動などがあります。

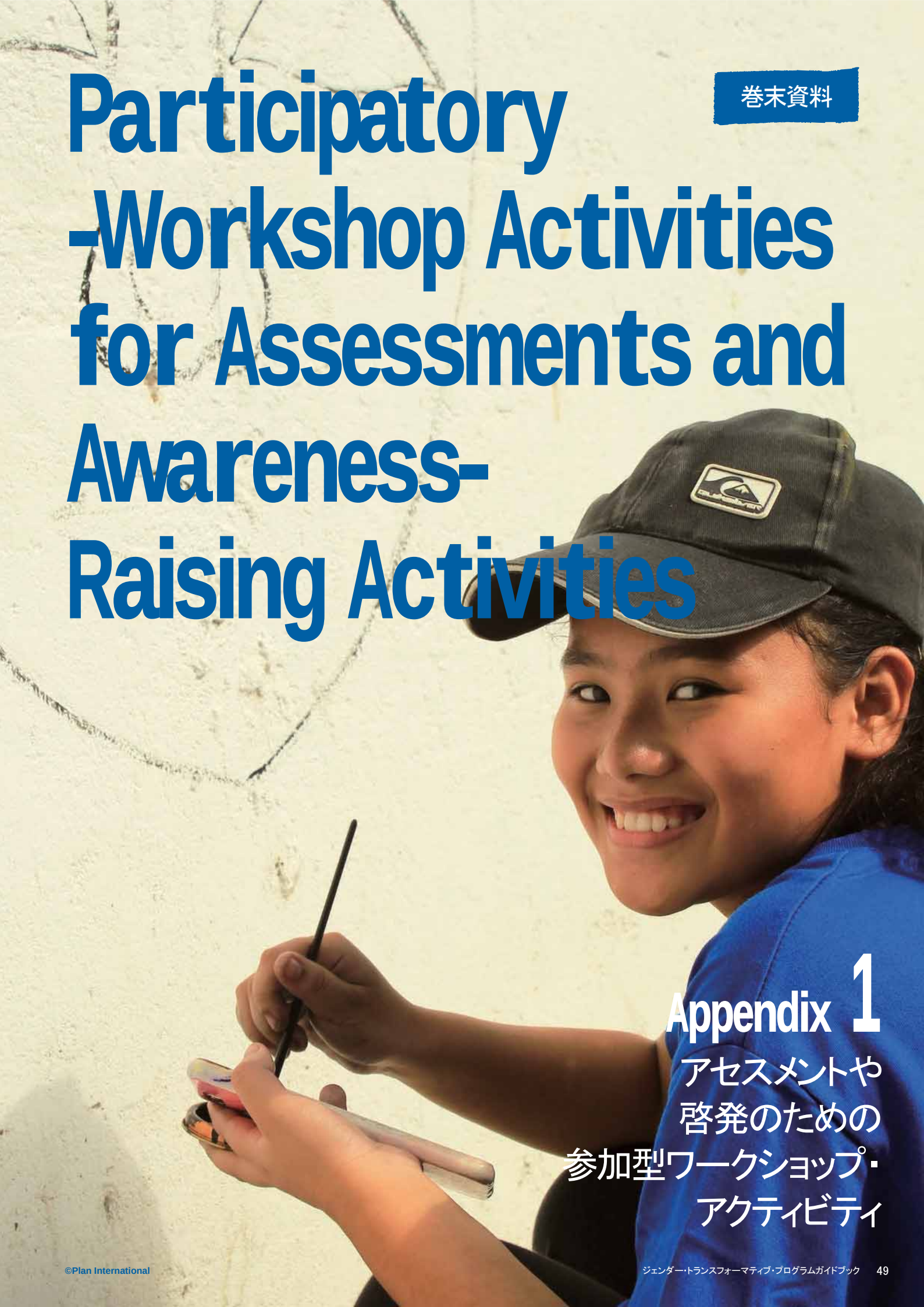
プロジェクトの対象者には、障害のある人々や少数民族の女性、18 歳未満で結婚した女性などが含まれています。プロジェクトでは、女性が利用できる公的サービスなどについても学ぶ場を設定することで、女性たちの公共サービスへの利用を改善しました。さらに、ジェンダーに基づく暴力や固定的性別役割の弊害については、女性だけでなく、職業技術訓練の参加女性の夫や地域住民の男性、政府関係者に対しても意識啓発活動を継続的に行っています。

※15：Gender and WASH Monitoring Tool について詳しく知りたい方はこちらを参照 https://www.plan.org.au/publications/gender-and-wash-monitoring-tool/

©Plan International

巻末資料

Participatory -Workshop Activities for Assessments and Awareness-Raising Activities



Appendix 1

アセスメントや
啓発のための
参加型ワークショップ・
アクティビティ

©Plan International

ACTIVITY 1

女性、男性はこうあるべき？

What women and men should be like?



所要時間：　1 時間



必要なアイテム：模造紙、付箋、マーカー



ねらい：　参加者がジェンダー規範 について考え、話し合う



形式：
- グループワークとディスカッション
- ジェンダーの専門性や知識・経験があるスタッフがファシリテーターになる

手順：

1. 安全な場づくり：ファシリテーターが参加者と一緒に安心してワークショップに参加するためのルールを設定する（例えば、お互いの意見を尊重するなど）。
2. 参加者人数が多い場合は、いくつかのグループ分け、グループ毎にファシリテーターを配置する。
3. ファシリテーターは、各グループで模造紙を 1 枚用意し、「女性は～であるべき」、「男性は～であるべき 」と書く。 参加者は、コミュニティでよく言われる「女性は～であるべき」、「男性は～であるべき」について「～」の部分で思いつくものを各自付箋に書き出す。 自分はそう思わないけど一般的によく言われるもの、 自分もそう思うものなどすべて書く。

©Plan International

女性は〜であるべき	男性は〜であるべき
例） 家事をする	例） 強くある

4. 参加者は、書き終えたら自分の付箋を模造紙の「女性は〜であるべき」、「男性は〜であるべき」のどちらかにを貼る。ファシリテーターは、付箋に書き込んである内容を確認し、似た内容や同じ内容をグループ分けする。

5. ファシリテーターは、付箋に書いてある内容を一つずつ読み上げ、参加者にどう思うか、同意するか、なぜそう思うかなどを問いかける。

6. ファシリテーターが一通りの内容を読み上げ、議論をしたら、次に以下の問いについてグループディスカッションを行う。

    a. （模造紙上に挙げられた）これらの「女性は〜であるべき」、「男性は〜であるべき」について、自分もそうしている（沿って行動している）ものは何か？そうしていないものは何か？なぜそうか？

    b. これらの「女性は〜であるべき」、「男性は〜であるべき」に沿って行動しないと何が起きるか？なぜそうか？

    c. 「女性は〜であるべき」のうち男性にも当てはまると思うものは何か？
    なぜそう思うか？
    「男性は〜であるべき」のうち女性にも当てはまると思うものは何か？
    なぜそう思うか？

7. いくつかのグループに分かれた場合は、各グループの代表が話し合った内容を全体に共有する。

8. ファシリテーターが、参加者から出てきた意見を例にあげながら以下のまとめを行う。

©Plan International

discussion summary

【ファシリテーターによるディスカッションのまとめ】

- 女性、男性などの 2 つに分類された性別への
  社会的な考えや期待のことを「ジェンダー規範」と言います。
- 私たちは皆こういったジェンダー規範に影響されています
  （質問 a への回答・意見を例にあげて）
- ジェンダー規範により差別などの悪影響があります
  （質問 b への回答・意見を例にあげて）
- 性別に関係なく皆が自分らしく生き、力を発揮できるように、
  性別への社会的な考えや期待にとらわれず、柔軟に考えましょう。

ファシリテーターが気を付けること：

- 参加者の意見により、女の子や女性にとって差別的、有害だと思われるようなジェンダー規範が強調されたり、助長されてしまわないようにする。また、参加者の差別的、偏見に基づく発言を放置しないようにする。もし、そのような発言があった場合は、参加者の間で異なる意見をもっている人がいるか聞き、参加者同士の議論を通して多様な意見を聴く場、気づきの場をつくる。
- 規範自体が問題ではなく、規範がジェンダーにより固定化されていることが問題であることに留意する。例えば、「女性は子育てをすべき」という規範について、女性だけではなく「女性も男性も子育てをすべき」という考えを共有する。

©Plan International

ACTIVITY 2

自分の立ち位置を決めよう！

Take a stand ！



所要時間： 1時間



必要なアイテム： 厚紙 A 4用紙、マーカー



ねらい：

— 参加者が ジェンダー規範 について 自分の考えを確認する

— ジェンダー規範について異なる意見から学び、気づきを促す



形式：

— ディスカッション

— ジェンダーの専門性や知識・経験があるスタッフが ファシリテーターになる

手順：

1. 安全な場づくり：ファシリテーターが参加者と一緒に安心してワークショップに参加するためのルールを設定する（例えば、お互いの意見を尊重するなど）。
2. 厚紙 A4用紙に、1 枚ずつ「そう思う」、「どちらとも言えない」、「そう思わない」、と書き、 床の前方に置く。「どちらとも言えない」 を真ん中に置くようにする。
3. 参加者全員に立ってもらい、 これから読み上げる文章について、「そう思う」、「どちらとも言えない」、「そう思わない」 のいずれかを決め、 自分の意見と同じ紙の場所に移動してもらうように説明する。
4. ファシリテーターは事前に以下の文章から議論したい適切なものをいくつか選ぶ。ひとつずつ読み上げ、 参加者に「そう思う」、「どちらとも言えない」、「そう思わない」 のいずれ かを決めてもらい、 紙の位置に移動してもらう。 全員が移動した後、 何人かにどうしてそう思うかを聞く。 意見を言い合った後に、気が変わった人は 、違う意見の場所に移動しても良いと伝える。

©Plan International

- 参男性の方が女性より村長に向いている
- 女の子・女性の方が男の子・男性より家事・育児に向いている
- 家事・育児を主にするのは母親であるべきだ
- お金を稼いでくるのは、 主に夫であるべきだ
- 妻は常に夫に従うべきだ
- 家庭で子どもの教育や結婚など大事なことを決めるのは主に夫が行うべきだ
- コミュニティでの会合は主に夫が家を代表して参加すべきだ
- コミュニティでの決め事は主に男性がすべきだ
- 状況によっては夫が妻を叩いたり、 殴ることが必要な時もある
- 「本物の男」 は泣くべきではない
- 男の子の方が女の子より科学や数学が生まれつき得意だ
- 男の子の方が女の子より学級委員長に向いている
- 男の子は女の子より強くあるべきだ
- 女の子は男の子より弱い存在だ
- どちらか選ばなければいけない場合、 娘より息子が学校へ行くべきだ
- 女の子は若さに価値があるので早く結婚した方が良い
- 女の子・女性は夜出歩くべきではない
- 女の子・女性は従順であるべきだ

5. ファシリテーターが、 参加者から出てきた意見を例にあげながら以下のまとめを行う。

discussion summary

【ファシリテーターによるディスカッションのまとめ】

- 女性、男性などの 2 つに分類された性別への
  社会的な考えや期待のことを「ジェンダー規範」と言います。
- ジェンダー規範は、差別などの弊害を引き起こします。
- 性別に関係なく、誰もが自分らしく生き、力を発揮できるように、
  性別への社会的な考えや期待にとらわれず、柔軟に考えましょう。

ファシリテーターが気を付けること :

- 参加者の意見により、女の子や女性にとって差別的、有害だと思われるようなジェンダー規範が強調されたり、助長されてしまわないようにする。差別的、偏見に基づく発言を放置しない。そのような発言があった場合は、参加者で違う意見をもっている人がいるか聞き、参加者同士の議論を通して多様な意見を聴く場、気づきの場をつくる。
- 規範自体が問題ではなく、規範がジェンダーにより固定化されていることが問題であることに留意する。例えば、「女性は子育てをすべき」という規範について、女性だけではなく「女性も男性も子育てをすべき」という考えを共有する。

©Plan International

ACTIVITY 3

資源へのアクセスとコントロール

Access to and control over resources



所要時間： 1時間



必要なアイテム： 模造紙、マーカー



ねらい：

— ジェンダーや年齢によるリソースの
アクセスとコントロールの違いについて気づきを促す



形式：

— グループワークとディスカッション

— ジェンダーの専門性や知識・経験があるスタッフが
ファシリテーターになる

手順：

1. 安全な場づくり：ファシリテーターが参加者と一緒に安心してワークショップに参加するためのルールを設定する（例えば、お互いの意見を尊重するなど）。
2. 参加者人数が多い場合は複数のグループに分け、グループ毎にファシリテーターを配置する。
3. ファシリテーターが資源（リソース）の例として、以下の項目を模造紙に書く。
   - スキル（教育、トレーニング、職業訓練）
   - ウェルビーイング（保健・医療サービス、栄養）
   - 自然・天然資源（公共、私有の土地、森林、水）
   - 資産や財産（農地、林地、家屋、移動手段、資機材、家畜、テレビ、ラジオ、冷蔵庫、自転車、オートバイ、自動車など）

©Plan International

- 情報（メディア、 テクノロジー、 インターネット、 携帯電話など）
- 収入（収入、 融資・クレジット）
- 社会的資源（交友、 人脈）
- 個人（自尊心、 自信）
- その他の資源

資源のアクセス（利用できるか）、コントロール（利用、所有、管理の決定権があるか）について、以下の例を用いて説明する。

資源の例	アクセス （利用できるか）	コントロール （利用、 所有、管理の決定権があるか）
教育	ある 学校に通っている	ない 進学、退学については自分の意思では決められず、親に決定権がある
携帯電話	ある 携帯電話を使っている	ある 携帯電話は自分の所有物であり、いつ、どの位使うか自分で管理できる

4. 各グループで以下の表を模造紙に書く。参加者が住むコミュニティにある資源について、「資源の例」を参考にしながら何があるか話し合い、出来るだけ具体的な資源を書き出すようにする。各資源のアクセス、コントロールは一般的にコミュニティにいる女性、女の子、男性、男の子のグループのなかから誰にあるか話し合って、以下のスコアをつける。

   1. ない　2. どちらかと言えばない　3. どちらかと言えばある　4. ある

アクセスとコントロールがないグループについては、 障壁となっているもの（なぜアクセスがなく、 コントロールできないのか）について話合い書き込む。その際、 障害のある人、 少数民族の人などそのコミュニティのなかで不利益な立場に置かれやすいグループについても一緒に考え話し合う。

©Plan International

資源の例	アクセス				コントロール				障壁となっているもの
	女性	女の子	男性	男の子	女性	女の子	男性	男の子	
例）交通手段のバイク	4	2	3	4	3	1	1	4	子どもはバイクに乗れない、買うお金がない。女性は安は安全面で制限される。
合計									

女性、女の子、男性、男の子の各グループにスコアの合計をつけ、その違いについて話合う。

5. 複数のグループに分かれた場合は、各グループの代表が話し合った内容を全体に共有する。

6. ファシリテーターが、参加者から出てきた意見を例にあげながら以下のまとめを行う。

discussion summary

【ファシリテーターによるディスカッションのまとめ】

- 社会に既に存在しているジェンダー規範、属性（年齢、障害の有無、少数民族かどうか、カーストが高いか低いかなど）、経済的状況などにより、資源へのアクセスとコントロールが異なります。
- これらの違いにより、更に社会的な力の不均衡が生じます。

©Plan International

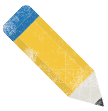
ACTIVITY 4

ジェンダーに基づいた利益、不利益

Gender advantages and disadvantages



所要時間： 1時間



必要なアイテム： 模造紙、付箋、マーカー



ねらい：

— ジェンダーに基づく利益、不利益について自分事として考える



形式：

— グループワークとディスカッション

— ジェンダーの専門性や知識・経験があるスタッフがファシリテーターになる

手順：

1. 安全な場 づくり：ファシリテーターが参加者と一緒に安心してワークショップに参加するためのルールを設定する（例えば、お互いの意見を尊重するなど）。女性、男性以外のジェンダー・アイデンティティの参加者（LGBTIQ+）がいる可能性を考慮して、アクティビティへの参加は自由とし、参加を希望しない人は見学という選択肢があることを伝える。
2. 参加者を女性グループと男性グループに分ける。
3. ファシリテーターは各グループで模造紙を1枚用意し、女性グループは「女性で良かったこと」、「女性で嫌なこと」、男性グループは「男性で良かったこと」、「男性で嫌なこと」と書く。
   参加者は、自分が思いつくことをできるだけ多く付箋に書く。

©Plan International

女性で良いこと	女性で嫌なこと
例） メイクができる	例） 夜自由に出かけられない

男性で良いこと	男性で嫌なこと
例） 夜自由に出かけられる	例） 重い荷物を運ばなければいけない

4. 参加者は書き終えた自分の付箋を模造紙に貼る。 ファシリテーターは、 付箋に書き込んである内容を確認し、 似た内容や同じ内容をグループ分けする。

5. ファシリテーターは付箋に書いてある内容をひとつずつ読み上げ、 参加者にどう思うか、 その理由は何か、 同意するか、 なぜそう思うかなどを問いかけ、議論する。

6. 各グループの代表がグループで話し合った内容を全体に共有し、 男性グループと女性グループを比較し、 違いについて議論する。

7. ファシリテーターが、 参加者から出てきた意見を例にあげながら以下のまとめを行う。

©Plan International

discussion summary

【ファシリテーターによるディスカッションのまとめ】

- 女性、男性などの 2 つに分類された性別への社会的な考えや期待のことを「ジェンダー規範」と言います。
- もちろん男性も、ジェンダー規範に影響され、利益、不利益を被っています。ただし、女性はジェンダー規範だけでなく、ジェンダーに基づく力の差（非対称性）、不平等な関係性やジェンダー秩序により、より深刻な身体的、精神的、性的暴力やハラスメントの被害を受けているという大きな違いがあります。

ファシリテーターが気を付けること：

- 参加者の意見によりジェンダー規範が助長されないようにする。差別的、偏見に基づく発言を放置しない。そのような発言があった場合は、参加者で異なる意見をもっている人がいるか聞き、議論を通して多様な意見を聴く場をつくる。

©Plan International



巻末資料

ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー【計画時のアセスメント】

Appendix 2

Gender-Transformative Marker -Assessment during a design phase-

©Plan International

A：状況分析

状況分析では、プロジェクトの活動分野（保健、教育など）に関連して提供されているサービスと制度のギャップ、人権侵害と不平等について、なぜどのように存在するのか、また、ジェンダー、年齢、その他の排除の要因（障害の有無、セクシュアリティ、民族、人種、経済状況など）によってその影響はどのように違うか細かくみていく。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**ジェンダー分析がされていない** ・プロジェクトの活動分野（保健、教育など）に関連して提供されているサービスと制度のギャップ、人権侵害と不平等を、子ども、思春期の子ども、ユース、大人といった分類のみを使って明らかにしている。			
低い可能性	**ジェンダー分析がされている** ・プロジェクトの活動分野（保健、教育など）に関連して提供されているサービスと制度のギャップ、人権侵害と不平等を、子ども、思春期の子ども、ユース、大人といった分類のみを使って明らかにしている。 ・ジェンダー（女の子と男の子、あるいは女性と男性）による影響の違い（なぜ、どのように）を分析している。			
中間の可能性	**ジェンダーと年齢の分析がされている** ・プロジェクトの活動分野（保健、教育など）に関連して提供されているサービスと制度のギャップ、人権侵害と不平等を、子ども、思春期の子ども、ユース、大人といった分類のみを使って明らかにしている。 ・ジェンダー（女の子と男の子、あるいは女性と男性）による影響の違い（なぜ、どのように）を分析している。 ・必要に応じて、年齢層による違いを明らかにしている。			
高い可能性	**ジェンダー、年齢、包摂の分析がされている** ・プロジェクトの活動分野（保健、教育など）に関連して提供されているサービスと制度のギャップ、人権侵害と不平等を、子ども、思春期の子ども、ユース、大人といった分類のみを使って明らかにしている。 ・ジェンダー（女の子と男の子、あるいは女性と男性）による影響の違い（なぜ、どのように）を分析している。 ・必要に応じて、年齢層による違いを明らかにしている。 ・少なくとも1つの排除されがちな特定のグループ（障害、セクシュアリティ、民族、人種、経済状況などに基づく）への影響（なぜ、どのように）を分析している。			

©Plan International

B1：ジェンダー規範

プロジェクトの目的、成果、活動が差別的なジェンダー規範とその多様なグループへの影響を変えようとしている。ジェンダー規範は特に、プロジェクトの活動分野（保健、教育など）や社会全体においての能力、役割、意思決定、代表制（Representation）に関わる内容を対象としている。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**ジェンダー規範が明らかにされていない** ・プロジェクトの活動分野（保健、教育など）に関係したジェンダー規範について明らかにされていない、または取り組みがない。			
低い可能性	**主要なジェンダー規範について一般的な啓発活動のみが行われる** プロジェクトの活動分野の主要なジェンダー規範について： ・一般的な啓発活動が行われる。			
中間の可能性	**主要なジェンダー規範と関連した阻害要因と促進要因について、コミュニティとの対話が行われる** プロジェクトの活動分野の主要なジェンダー規範と関連した阻害要因と促進要因について： ・一般的な啓発活動が行われる。 ・コミュニティ、家族との対話が行われる。			
高い可能性	**主要なジェンダー規範と関連した阻害要因と促進要因について、コミュニティとの対話が行われ、メディアまたは政策への働きかけがある** プロジェクトの活動分野の主要なジェンダー規範と関連した阻害要因と促進要因について： ・一般的な啓発活動が行われる。 ・コミュニティ、家族との対話が行われる。 ・ジェンダー規範を変えるためにメディアまたは政府や政治家への働きかけがある。			

©Plan International

B2：女の子・女性のエージェンシー

プロジェクトの目的、 成果、 活動が女の子または若い女性のエージェンシーの向上に取り組む。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**女の子または若い女性たちと一緒に行うジェンダー平等と包摂を促進する活動がない** ・ジェンダー平等とエージェンシーに関連した活動を女の子または若い女性たちと一緒に行っていない			
低い可能性	**女の子または若い女性へプロジェクトの活動分野における課題、ジェンダー平等と包摂について啓発活動が行われる** 女の子または女性へ以下の意識と知識の向上を支援する。 ・プロジェクトの活動分野における課題について学ぶ。 ・ジェンダー平等と包摂について学ぶ。			
中間の可能性	**女の子または若い女性へプロジェクトの活動分野における課題、ジェンダー平等と包摂について能力強化が行われる** 女の子または女性へ以下の支援をする。 ・プロジェクトの活動分野における課題、ジェンダー平等と包摂について意識と知識を向上させる。 ・自信を付け、自尊心を育み、批判的思考を身につける。 ・課題に対して声をあげ、リスクを特定し軽減する能力を強化する。			
高い可能性	**女の子または若い女性へプロジェクトの活動分野における課題、ジェンダー平等と包摂について能力強化が行われる** 女の子または女性へ以下の支援をする。 ・プロジェクトの活動分野における課題、ジェンダー平等と包摂について意識と知識の向上を支援する。 ・自信を付け、自尊心を育み、批判的思考を身につける。 ・課題に対して声をあげ、リスクを特定し軽減する能力を強化する。 ・周りを動かし影響を与える能力を強化する。			

©Plan International

B3：男の子・男性のエンゲージメント

プロジェクトの目的、成果、活動は、男の子、男性と共に活動し、彼らがジェンダー平等の理解を高め、活動に参加し、ジェンダー間の力関係の是正、非暴力とポジティブな男性性（マスキュリニティ）を育む支援をする。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**男の子、男性と一緒に行うジェンダー平等と包摂を促進する活動がない** ・ジェンダー平等と包摂、または男性性（マスキュリニティ）の課題について男の子、男性たちと一緒に行う活動がない。			
低い可能性	**男の子、男性と一緒に行うジェンダー平等と包摂についての啓発がある** 男の子、男性へ以下の支援をする。 ・ジェンダー平等と意識、知識の向上を支援する。			
中間の可能性	**男の子、男性と一緒にジェンダー平等と包摂、ポジティブな男性性（マスキュリニティ）について取り組む** 男の子、男性へ以下の支援をする。 ・ジェンダー平等と意識、知識の向上をさせる。 ・非暴力とポジティブな男性性（マスキュリニティ）を育む。			
高い可能性	**他の男の子、男性を巻き込みジェンダー平等と包摂、ポジティブな男性性（マスキュリニティ）について行動を取る** 男の子、男性へ以下の支援をする。 ・ジェンダー平等と意識、知識の向上を支援する。 ・非暴力とポジティブな男性性（マスキュリニティ）を育む。 ・ジェンダー平等と包摂達成のための活動にコミットし、他者を巻き込みながら自ら行動をとる。			

©Plan International

B4：女の子・女性の状況（コンディション）と地位（ポジション）

プロジェクトの目的、成果、活動が女の子と若い女性の家庭とコミュニティにおける状況（コンディション：生活状況、幸福、ケア、支援、資源、機会）と地位（ポジション：社会的地位や尊重、パワー）を平等にするための改善をする。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**プロジェクトの活動分野において状況（コンディション）の改善をする活動があるがジェンダーの視点に欠ける** ・プロジェクトの参加者の日常の状況（コンディション）の改善をする活動があるがジェンダーの視点に欠ける。			
低い可能性	**女の子、若い女性の日常の状況（コンディション）を改善するために物的資源を提供する** プロジェクトの活動分野において、以下の方法で家庭やコミュニティでの女の子、若い女性の日常の状況（コンディション）へ対応する活動をする。 ・物的資源を提供する。			
中間の可能性	**ジェンダー格差、不平等、障壁に取り組むことにより女の子、若い女性の日常の状況（コンディション）を改善する** プロジェクトの活動分野において、以下の方法で家庭やコミュニティでの女の子、若い女性の日常の状況（コンディション）を改善する活動をする。 ・物的資源を提供する（必要に応じて）。 ・具体的なジェンダー格差、不平等に取り組む。			
高い可能性	**ジェンダー障壁に取り組むことにより女の子、若い女性の日常の状況（コンディション）と地位（ポジション）を改善する** プロジェクトの活動分野において、以下の方法で家庭やコミュニティでの女の子、若い女性の日常の状況（コンディション）を改善する活動をする。 ・物的資源を提供する（必要に応じて）。 ・具体的なジェンダー格差、不平等に取り組む。 ・女の子、女性の社会的地位の改善に取り組む。			

©Plan International

B5：包摂と多様性

プロジェクトの目的、成果、活動が多様な子ども、思春期の子ども、ユース（ジェンダー、年齢、障害、セクシュアリティ、民族などプロジェクトに関連した排除要因）の異なるニーズを明確にし、取り組む。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	包摂への配慮なし ・排除の要因となる子ども、思春期の子ども、ユースのニーズを明確にしていない。			
低い可能性	ひとつの排除されがちなグループへ対応 ・ひとつの特定な排除されがちなグループのみを支援する。			
中間の可能性	ジェンダー、年齢、その他の排除の要因を考慮して、排除されがちなグループを支援する排除されがちなひとつ以上のグループへ、以下に基づいて異なるニーズに対応した支援をする。 ・ジェンダー ・年齢 ・少なくともひとつの排除の要因			
高い可能性	ジェンダー、年齢、その他の排除の要因を考慮して、排除されがちなグループを支援する排除されがちなひとつ以上のグループへ、以下に基づいて異なるニーズに対応した支援をする。 ・ジェンダー ・年齢 ・複数の排除の要因			

©Plan International

B6 : 社会制度と仕組み

プロジェクトの目的、 成果、 活動が、 ジェンダーの平等と包摂実現のために法律、 制度、 市民社会の改善を目指す。（たとえば、 法律 / 政策、 サービスへのアクセスと提供、 代表的な意思決定プロセス、 投資、 能力、 およびコミットメント）。 個人、 コミュニティ、 市民社会、 サービスの提供者、 政策立案者などのさまざまなステークホルダーと協働でジェンダー平等と包摂促進することを目指す。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	プロジェクトの活動にサービス、制度または政策を改善する試みがない			
低い可能性	プロジェクトの活動はターゲット分野のサービスを改善する可能性がある サービス提供のためのインフラの改善またはサービス提供者による 1 回限りのトレーニングを介して（ただしジェンダーの平等と包摂については含まれていない）。			
中間の可能性	プロジェクトの活動は、よりジェンダーに対応し、包摂的となるため、ターゲット分野のサービスを以下を通して改善する ・サービス提供のためのインフラを改善する。 ・サービス提供者の継続的な能力開発を支援する。 ・継続的な参加型モニタリングとフォローアップサポートを行う。			
高い可能性	プロジェクトの活動は、よりジェンダーに対応し、包摂的となるため、ターゲット分野のサービスを以下を通して改善する ・サービス提供のためのインフラを改善する。 ・サービス提供者の継続的な能力開発を行う。 ・継続的な参加型モニタリングとフォローアップサポートを行う。 ・さまざまなサービスやアクターを調整して改善、する取り組み、または政策と予算配分を改善するための取り組みを行う。			

©Plan International

C1：モニタリング・評価のデータ

M&E フレームワークは、参加者のデータがどのように分類されるか定める（性別、年齢、障害の有無、民族、 社会的地位などの排除要因による分類）。

レベル	説明	該当する レベル選択	該当レベルを 選んだ理由	将来的レベルを 改善するためには 何ができるか
可能性なし	**性別、年齢、その他の要因による分離なし** ・性別、年齢、障害、その他の要因による分類がない。			
低い可能性	**性別または年齢による分類** データは以下によって分類が必要： ・性別または年齢層			
中間の可能性	**性別と年齢による分類** データは以下によって分類が必要： ・性別 ・年齢層			
高い可能性	**性別と年齢による分類** データは以下によって分類が必要： ・性別 ・年齢層 ・障害の有無 ・民族、貧困レベルなどその他の属性（特徴）			

©Plan International

C2：リスク

プロジェクトの設計で、ジェンダーの平等、女の子の権利、包摂を促進するための活動に関わる女の子、男の子（子ども、思春期の子ども、ユース）、女性、男性へのリスクを明らかにし、それぞれの参加者グループに合わせた対策を立てる。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**リスクの特定なし** ・ジェンダーの平等、女の子の権利、包摂を促進するための活動に関わる女の子、男の子（子ども、思春期の子ども、ユース）、女性、男性へのリスクを特定していない。			
低い可能性	**リスクは特定されているが対策がない** ・ジェンダーの平等、女の子の権利、包摂を促進するための活動に関わる女の子、男の子（子ども、思春期の子ども、ユース）、女性、男性へのリスクを特定している。			
中間の可能性	**リスクが特定され一般的な対策が決められている** ・ジェンダーの平等、女の子の権利、包摂を促進するための活動に関わる女の子、男の子（子ども、思春期の子ども、ユース）、女性、男性（及び LGBTIQ+ の人々など）へのリスクを特定している。 ・活動やグループにより想定されるリスクを区別している。 ・リスクに対する一般的な対策が決められている。			
高い可能性	**リスクが特定されその状況に応じた対策が決められている** ・ジェンダーの平等、女の子の権利、包摂を促進するための活動に関わる 女の子、男の子（子ども、思春期の子ども、ユース）、女性、男性へのリスクを特定している 。 ・活動やグループ により想定される リスクを区別 している。 ・リスクに対する 状況に応じた 対策が決められている。 ・プ ラン の「Safeguarding in Programming and Influencing Work Guidance」を用いて、セーブガーディングの観点が取り込まれている 。			

©Plan International

C3：参加

子ども、思春期の子ども、ユースは、ジェンダーと年齢を考慮し、安全で意義のある方法でプロジェクトの設計、実施、モニタリングと評価のプロセスに関わっている。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**子ども、思春期の子ども、ユースの関与なし** ・プロジェクトの設計、実施に参加者の積極的な関わりがない。			
低い可能性	**特定の活動のみ子ども、思春期の子ども、ユースの関与がある** 多様な参加者が以下に関わる。 ・特定の活動の実施。			
中間の可能性	**プロジェクトの設計と特定の活動に子ども、思春期の子ども、ユースの関与がある** 多様な参加者が以下に関わる。 ・プロジェクトの設計。 ・特定の活動の実施。			
高い可能性	**プロジェクトの設計、特定の活動、モニタリングと評価に子ども、思春期の子ども、ユースの関与がある** 多様な参加者が以下に関わる。 ・プロジェクトの設計。 ・特定の活動の実施。 ・モニタリングと評価のデータ収集と分析。			

©Plan International

C4：専門性

ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材がプロジェクトの設計と実施段階に関与している。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材の関与がない** ・ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材がプロジェクトの設計と実施段階に関与していない。			
低い可能性	**ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材がプロジェクトの設計に関与している** ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材が以下に関与している。 ・設計のプロセス。			
中間の可能性	**ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材がプロジェクトの設計と実施段階に関与している** ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材が以下に関与している。 ・設計のプロセス。 ・実施段階。			
高い可能性	**ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材がプロジェクトの設計と実施段階、能力強化に関与している** ジェンダーと包摂に関する専門性をもった人材が以下に関与している。 ・設計のプロセス。 ・実施段階。 ・スタッフの能力強化に関するアセスメントと実施。			

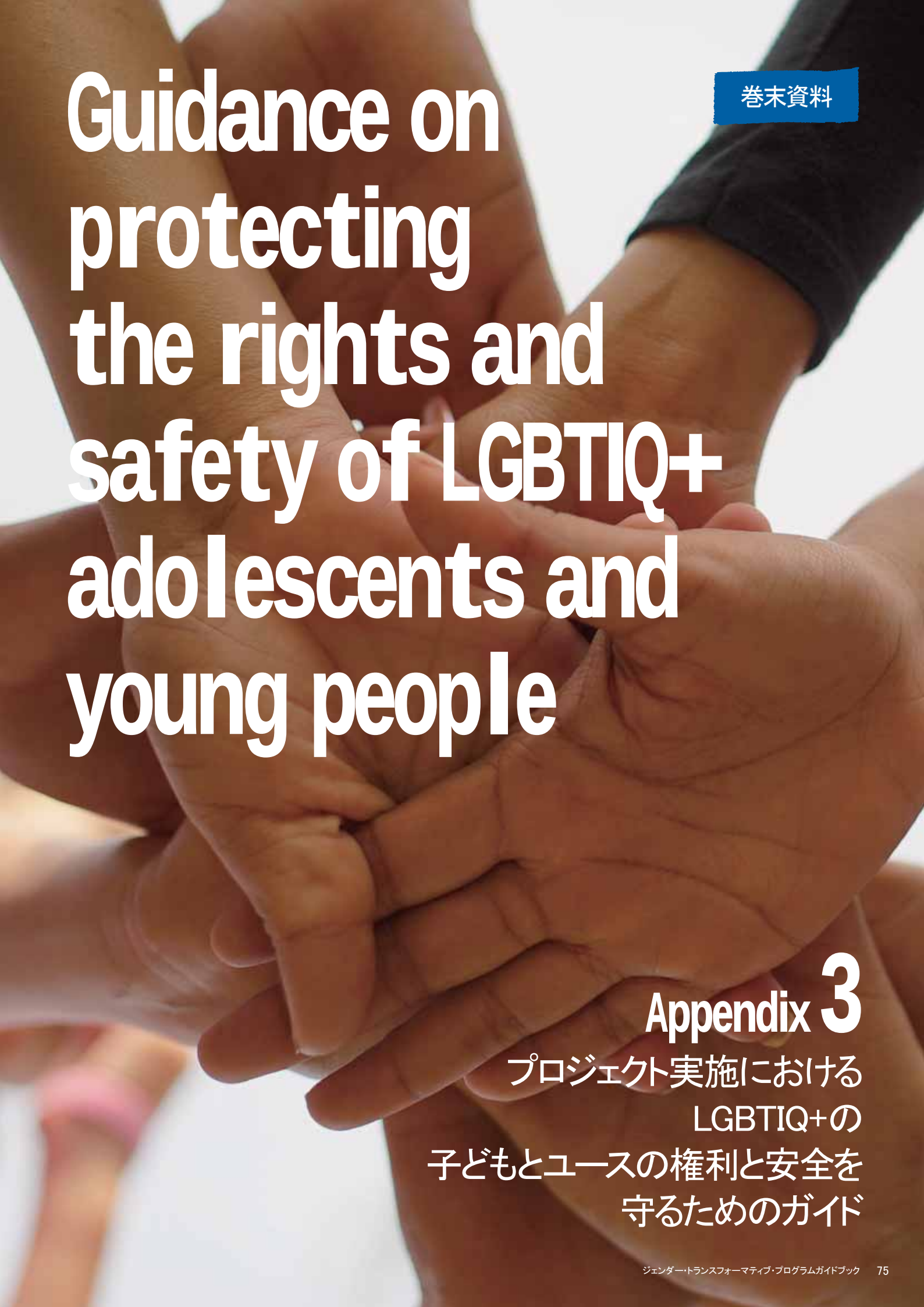
©Plan International

C5：リソース

プロジェクトには、ジェンダー・トランスフォーマティブな設計、実施、モニタリングと評価プロセスに必要な資金が確保されている。

レベル	説明	該当するレベル選択	該当レベルを選んだ理由	将来的レベルを改善するためには何ができるか
可能性なし	**予算なし** ・プロジェクトの設計段階においてジェンダーと包摂について分析する予算がない。			
低い可能性	**限定的な予算** 以下の予算が確保されている。 ・プロジェクトの設計段階においてジェンダーと包摂のアセスメントをする予算。			
中間の可能性	**分析とモニタリングと評価の予算がある** 以下の予算が確保されている。 ・プロジェクトの設計段階においてジェンダーと包摂のアセスメントをする予算。 ・ジェンダーと包摂へ対応したモニタリングと評価。			
高い可能性	**すべての活動に十分な予算がある** 以下の予算が確保されている。 ・プロジェクトの設計段階においてジェンダーと包摂のアセスメントをする予算。 ・ジェンダーと包摂へ対応したモニタリングと評価。 ・スタッフの能力強化実施に関するアセスメントと実施。			

©Plan International



巻末資料

Guidance on protecting the rights and safety of LGBTIQ+ adolescents and young people

Appendix 3

プロジェクト実施における
LGBTIQ+の
子どもとユースの権利と安全を
守るためのガイド

- プロジェクトを始める前に、 その地域の LGBTIQ+ に関する社会的、 法的な状況を調査し、LGBTIQ+ の子どもとユース、 組織とスタッフにプロジェクトを実施するうえでのリスクがあるか分析する。

- プロジェクトのスタッフと実施パートナーの間で、SOGIESC（性的指向、性自認、ジェンダー表現、 性的特徴）、LGBTIQ+ の権利と、LGBTIQ+ の子どもとユースが直面する障壁について基礎的な理解を得る。

- 本人の同意なしに、LGBTIQ+ の子どもとユースが他の人に公にしていないアイデンティティを暴露し（アウティング）、リスクに晒すような行動はしない。

- 可能な限り現地の LGBTIQ+ の人々と連携して、 プロジェクトの実施に際してのリスクについてアドバイスをもらう。

- 広報活動のなかで、LGBTIQ+ の子どもとユースに関連した以下のような用語や画像は使用しないようにする：

  ✓自国の文化や価値観の押し着けや人種差別を暗示するもの

  ✓上から目線に立ったような、 またはLGBTIQ+の子どもとユースの尊厳を傷つけるようなもの

  ✓同性愛嫌悪を、 ある特定の文化や宗教と結びつけるようなもの

- プロジェクト活動に対する反発、脅し、危険が生じた時の対応方法を明確にしておく。

- どのようなプロジェクトが LGBTIQ+ の子どもとユースをサポートできるのか、 どのように実施すべきかを検討する。 可能であればその地域の LGBTIQ+ の子どもとユースやLGBTIQ+を支援する団体と話し合って進める。

- 目下の課題に取り組むだけでなく、 長期的かつ持続可能な計画を持ってプロジェクトを開始する。 出口戦略のない一時的なプロジェクトは行わない。

- LGBTIQ+ の人々は皆同じ経験をしていると暗示するような、LGBTIQ+ をひとくくりにする表現は避け、LGBTIQ+の人々の多様性を意識する。

- LGBTIQ+ の子どもとユースが無力であるような表現は避け、 彼女ら・彼らにはレジリエンスがあり、 声をあげ、 行動を起こす力があることを認識する。

©Plan International

参考資料

Comrie-Thomson, L, Mavhu, W, Makungu, C, Nahar, Q, Khan, R, Davis, J, Hamdani, S, Stillo, E, & Luchters, S (2015), "Men Matter: Engaging Men in MNCH Outcomes", Plan Canada, Toronto.
https://plan-international.org/publications/men-matter-engaging-men-better-mnch-outcomes

Davies, Rick. (2015). "The 'Most Significant Change' (MSC) Technique: A Guide to Its Use".
https://www.mande.co.uk/wp-content/uploads/2005/MSCGuide.pdf

Plan International. (2014). "Project Evaluation "Young men for gender equality" El Salvador, Guatemala, Dominican Republic, Honduras and Germany"

Plan International. (2018). "Getting It Right: A Guidance Note for Gender Transformative Programming and Influencing"

Plan International. (2018). "Facilitator's Manual. Champions of Change – Youth Promoting Gender Equality"
https://www.alignplatform.org/sites/default/files/2018-09/0.%20Plan_CoC_Boys_Manual_FINAL.pdf

Plan International. (2020). Guidance Note: Gender Transformative Education and Programming

Plan International. (2020). Gender Transformative Marker User Guide

Plan International. (2017). Strengthening Our Work on Sexual Orientation and Gender Identity Program Guidance

Plan International Australia. (2018). "Gender and Wash Monitoring Tool"
https://www.plan.org.au/publications/gender-and-wash-monitoring-tool/

Plan International Canada. "Plan International Canada's architecture for gender transformative programming and measurement: a primer"
https://www.communityledtotalsanitation.org/sites/communityledtotalsanitation.org/files/EmrulHasan.pdf

Plan International Canada. (2020). "Gender-Transformative Health Programming: A Compendium of Promising Practices and Lessons Learned from Plan International Canada's SHOW Project". Toronto, Ontario: Plan International Canada.

Plan International Lao PDR. (2017). "Community Led Total Sanitation Plus (CLTS+) Guide, Integrated Public Health Programme"

Plan International Lao PDR. (2019). "Final Evaluation Report of Plan International 'Gender Equality in Secondary School' (GESS) Project in Bokeo, Lao PDR"



ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラムガイドブック
～ジェンダー平等達成と社会変革を目指したプログラムづくりのガイドブック～
2021年1月発行

制作：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
本ガイドブックに関する問い合わせ先：アドボカシーチーム
TEL：03-5481-3533
E-mail：advocacy@plan-international.jp
監修：田中由美子（城西国際大学招聘教授、国連女性の地位委員会日本代表）

本ガイドブックの無断転載、引用はご遠慮ください